学校法人
日本赤十字学園
Japanese Red Cross Academy

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

# ANNUAL REPORT

## 学校法人日本赤十字学園
## 令和3年度事業活動のご報告

ご挨拶／理事長メッセージ

# 赤十字の人道の理念を教育の基調として

学校法人日本赤十字学園　理事長　大塚義治

日本赤十字社による看護職養成の歴史は130年余を数えますが、学校法人日本赤十字学園は、その高等教育部門として昭和29年に創設されました。今日では、全国に6看護大学7看護学部と6大学院、1短期大学を擁し、他に類をみない看護・介護福祉系の学園に発展し、この間、皆さまのご支援のもとに、約2万2千人に上る多数の優秀な人材を世に送り出しているものと自負いたしております。

その一方、我が国は少子高齢化をはじめとする社会構造の変動のただ中にあって看護を取り巻く状況もまた大きく変化しており、看護系大学・看護学部の新設による競争の激化などに加え、最新医療に対応した高度な教育環境の整備が求められています。

更には、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化の様相を呈することから、急速な活用が求められた遠隔授業の環境整備に際し、情報通信技術の維持・拡充、そのための財源確保など、近年の大学運営においては、新たな多くの課題も抱えるに至っております。

このような厳しい状況のなかにあっても、各大学はその使命に基づき、質の高い特色ある教育を実践しつつ、社会の変化、不測の事態等にも柔軟に対応できる体制を整え、数多くの看護系大学の中から、学生、ご家族、そして教員に選ばれる魅力ある大学であり続けなければなりません。

そのため、第一次中期計画（平成21年度～25年度）、第二次中期計画（平成26年度～30年度）に続き、令和元年度から5年度までの5か年を実施計画とする第三次中期計画が策定されておりますが、これを道標として、高い実践能力を発揮できる組織および経営基盤の構築を目指して、引き続き取り組んでまいりたいと思います。

そして、3年を経過した第三次中期計画の中間評価を踏まえた第四次中期計画、更には、中央教育審議会の答申「2040年の高等教育のグランドデザイン」を見据えた長期ビジョンの策定に向けた検討を進め、学園各大学の教学及び運営機能の向上に一層努めてまいります。

これからも各大学の特色を活かし、看護・介護の専門職としての高度な知識と技術に加え、人と痛みを分かち合い、患者に寄り添うことができる、心の豊かな人材の育成に全力を傾けてまいります。

皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

建学の精神

# 「人間のいのちと健康、尊厳を守るために力を尽くす人材を育てる」

現実を踏まえて理想を忘れず、今、手元にある苦痛を一つでも取り除く努力によって理想に近づく。
これが赤十字の「人道」です。
赤十字の「人道」は、医療や福祉の分野における原点と言えます。
学校法人日本赤十字学園は、赤十字の人道の理念に基づき、人間のいのちと健康、尊厳を守る担い手として地域で、世界で活躍できる人材を育成します。

## CONTENTS


日本赤十字学園の看護大学・大学院・短期大学 …… 02
令和3年度の各大学のトピックス …… 04
日本赤十字学園第三次中期計画 …… 06

**学園全体の動向** …… 07

**各大学・短期大学の動向**
- 日本赤十字北海道看護大学 …… 08
- 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字秋田短期大学 …… 10
- 日本赤十字看護大学 …… 12
- 日本赤十字豊田看護大学 …… 14
- 日本赤十字広島看護大学 …… 16
- 日本赤十字九州国際看護大学 …… 18

**事業の概要**
学生の動向 …… 20
教育活動の動向 …… 25
研究活動の動向 …… 26
奨学金の受給状況 …… 28
日本赤十字国際人道研究センターの動向 …… 30

**財務の概要**
資金収支決算 …… 32
事業活動収支決算 …… 34
貸借対照表 …… 36
財産目録 …… 38
参考（過去5ヵ年の財務データ） …… 39

**法人の概要**
学園の沿革 …… 42
学園の組織/教職員の概要 …… 43
役員・評議員一覧
理事会・常務理事会・評議員会の開催状況 …… 44
各大学・短期大学の施設概要 …… 45

# 日本赤十字学園の看護大学・大学院・短期大学

令和4年3月31日　現在

## 得られる受験資格・取得資格

- 看護師
- 養護教諭一種免許
- 保健師
- 介護福祉士
- 助産師

## 日本赤十字 広島看護大学

創設：平成12年（2000年）

～“人道”の心で
人とつながる看護を学ぶ～

| | 収容定員 | 入学定員 |
|---|---|---|
| 看護学部 看護学科 | 500 | 125 |
| 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 | 20 | 10 |
| 看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程 | 6 | 2 |

## 日本赤十字 九州国際看護大学

創設：平成13年（2001年）

～ひとりを看る目、その目を世界へ～

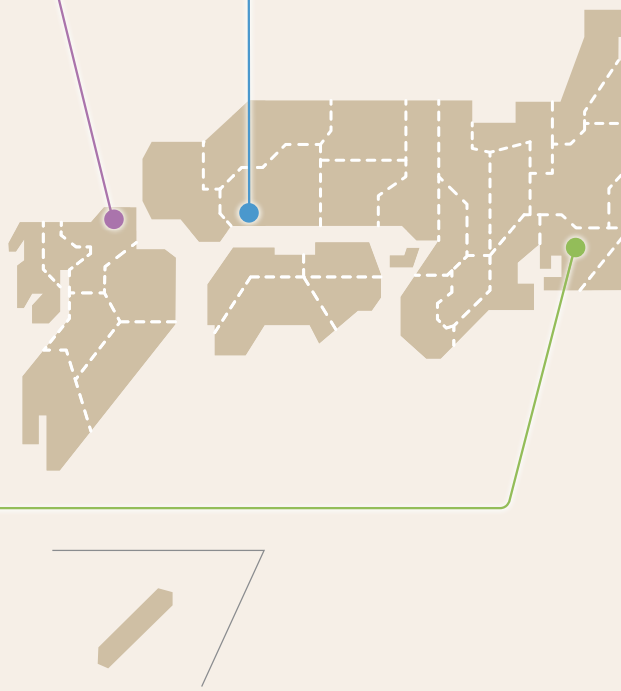
| | 収容定員 | 入学定員 |
|---|---|---|
| 看護学部 看護学科 | 400 | 100 |
| 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 | 20 | 10 |
| 看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程 | 6 | 2 |

## 日本赤十字 豊田看護大学

創設：平成元年（1989年）

～地球に寄り添う看護～

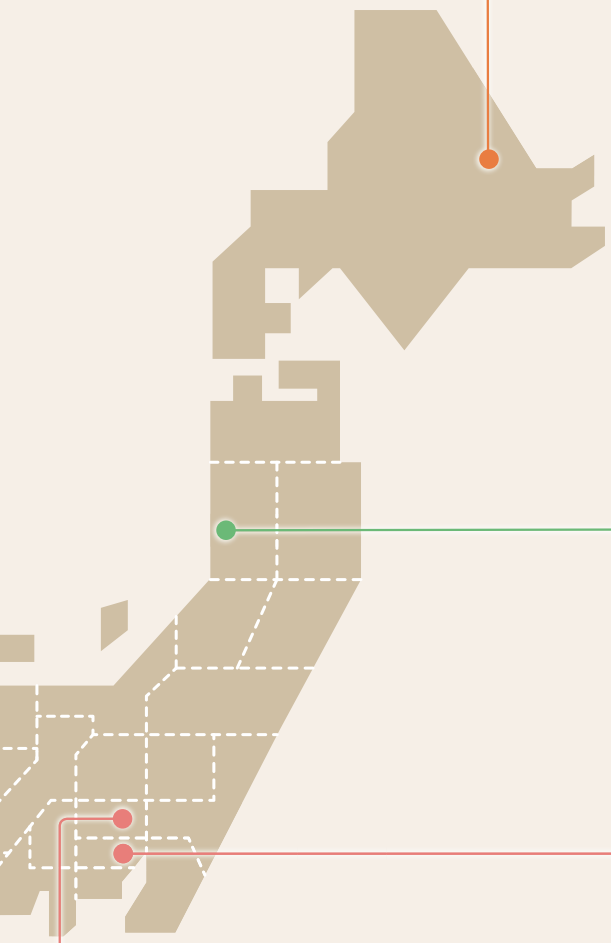
| | 収容定員 | 入学定員 |
|---|---|---|
| 看護学部 看護学科 | 480 | 120 |
| 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 | 20 | 10 |
| 看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程 | 6 | 2 |



## [各大学院における専門看護師教育課程]

| 大学院名 | 教育課程 |
|---|---|
| 日本赤十字北海道看護大学大学院 | 慢性看護、精神看護、がん看護※ |
| 日本赤十字秋田看護大学大学院 | がん看護、精神看護 |
| 日本赤十字看護大学大学院 | がん看護、小児看護、慢性看護、クリティカルケア看護、精神看護、老年看護、災害看護、在宅看護 |
| 日本赤十字豊田看護大学大学院 | 小児看護、精神看護 |
| 日本赤十字広島看護大学大学院 | がん看護、小児看護、精神看護、災害看護 |
| 日本赤十字九州国際看護大学大学院 | クリティカルケア看護、在宅看護、精神看護、老年看護 |

※は休講中



## 日本赤十字 北海道看護大学

創設：平成11年（1999年）

～手渡しの看護を～

| | 収容定員 | 入学定員 |
|---|---|---|
| 看護学部 看護学科 | 400 | 100 |
| 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 | 32 | 16 |
| 看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程 | 6 | 2 |

## 日本赤十字 秋田看護大学
## 日本赤十字 秋田短期大学

創設：平成8年（1996年）

～「生きる」を支える人になる～

| | 収容定員 | 入学定員 |
|---|---|---|
| 看護学部 看護学科 | 400 | 100 |
| 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 | 24 | 12 |
| 看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程 | 6 | 2 |
| 短期大学 介護福祉学科 | 60 | 30 |

## 日本赤十字 看護大学

創設：昭和29年（1954年）

～Vision for Humanity
-人道の実現に向けて～

| | 収容定員 | 入学定員 |
|---|---|---|
| 看護学部 看護学科 | 540 | 130 (3年次編入学 10) |
| さいたま看護学部 | 160 | 80 |
| 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 | 62 | 32 |
| 看護学研究科 国際保健助産学専攻 修士課程 | 30 | 15 |
| 看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程 | 24 | 8 |

### [各大学における認定看護管理者教育課程]

| 大学名 | 教育課程 |
|---|---|
| 日本赤十字看護大学大学院 | 看護管理学領域 |
| 日本赤十字豊田看護大学大学院 | 看護管理学領域 |
| 日本赤十字広島看護大学大学院 | 看護教育・管理学分野 |

### [各大学における認定看護師教育課程]

| 大学名 | 教育課程 |
|---|---|
| 日本赤十字広島看護大学 | 摂食・嚥下障害看護 |

# 令和3年度の各大学のトピックス

## 日本赤十字 北海道看護大学

### 基礎・成人看護実習室を使用した職域接種

基礎・成人看護実習室を使用した職域接種

7月5日から、本学の基礎・成人看護実習室を使用し職域接種を開始しました。この職域接種は、「安心して勉強や実習を行って欲しい、出来るだけ生活不安を減らしてあげたい」という思いから、学生への接種をスタートさせました。

しかし、職域での接種人数が足りず包括連携協定を結んでいる北見市教育委員会に人員の確保を依頼し、接種を希望する本学の学生414名（全学生の90.8%）と、北見市教育委員会の小・中学校教諭等の計1,609名に接種を行うことができ、8月7日までに2回目の接種を完了しました。

さらに、3回目の接種においては、政府からの接種加速化をうけ、本学でも令和4年3月2日から接種を開始しました。地域の負担を少しでも軽減したいという思いもあり、本学の学生と卒業する学生、そして地域の一般市民も含めた計1,200名への接種を開始し、本学の学生もスタッフの一員として従事しました。

## 日本赤十字 秋田看護大学／日本赤十字 秋田短期大学

### 養護教諭一種課程の1期生の卒業

養護教諭一種課程の1期生の卒業

本学看護学部では、平成30年4月の入学者から、養護教諭の教職課程を履修し、所定の単位を修得することにより、卒業と同時に「看護師国家試験受験資格」とともに「養護教諭一種免許状」の取得が可能になりました。

教職課程における教職や専門科目、養護実習等の学びでは、「豊かな人間性」を育むことを大切にしてきました。また、教員採用試験対策では、3年次の12月から3月にかけて、教職、専門、一般教養、論作文、面接指導ときめ細やかな計画のもと対策に努め、採用試験直前に集中講座を行って仕上げとしました。今年度は養護教諭一種課程の１期生として、初めての教員採用試験に臨み、おかげさまで13名中5名の学生が合格することができ、この春から養護教諭としての第1歩を踏み出します。これからも「人道」を教育理念とし、看護の学びを強みとして、学校教育現場で頼りとされる養護教諭の育成に努めて参ります。

## 日本赤十字 看護大学

### 地域に根ざした看護教育（さいたま看護学部）

コミュニティ演習

「コミュニティケア＝地域に根ざした看護」を担える看護師の育成を目指し令和2年に開設されたさいたま看護学部では、コロナ禍が続く中、昨年度より対面授業を増やし、赤十字病院での実習も無事に終了できました。2年生のコミュニティ演習では、地域住民が健康を守るための活動を展開している地元グループや施設等においてフィールドワークを行い、住民自身による活動を学生が主体的に学修することができました。また、新型コロナウイルス感染症拡大の中、急増した在宅療養者への電話対応等で業務が逼迫し危機的状況の地元保健所支援のため、学内で本事態を「災害」と明確に位置付け、9月及び2～3月にかけ学内の看護系教員を延べ36日間保健所に派遣しました。保健所職員からは「さすがは赤十字の看護師・保健師」と評価をいただき、行政機関の職員とも良好な関係を構築でき、地域に根ざした看護の実現に向け、学生や教員が歩を進めることのできた1年となりました。

## 日本赤十字 豊田看護大学

### 自治体への新型コロナウイルス感染症ワクチン集団接種の支援

本学は、豊田市の予防接種事業である集団接種の会場として5月から10月まで大学施設を提供すると共に、教職員もワクチン接種支援への協力を行い、11,811名の方が本学でワクチンを接種しました。

ワクチン接種については副反応が心配されていますが、幸いにも本学の接種会場では血管迷走神経反射等の副反応はほとんど見られませんでした。

ワクチン接種後は、副反応の出現に備えて少なくとも15分間は待機することが求められます。この待機時間を利用して、待機会場では、本学の感染制御の専門家（Infection Control Doctor）が作成した感染予防行動に関するDVD（15分間）を繰り返し上映し、新型コロナウイルスの感染予防に関する基本的な知識と具体的な対策について、情報提供を行いました。

豊田市民へのワクチン接種の支援

## 日本赤十字 広島看護大学

### 新型コロナウイルスワクチン集団接種の実施

医療従事者等（医学部生等の医療機関において実習を行う者）として、5月中旬及び6月中旬に、学生・教職員等の希望者を対象に学内においてワクチン集団接種を実施しました。前例にない事業でしたが、緊急事態宣言の最中、入念に下準備・リハーサルを行い、当日はスムーズに接種を進めることができました。

看護教員が学生にワクチンを接種

当日の問診は、佐伯地区医師会の医師による巡回診療の形式をとり、看護師免許を有する本学教員が予診票の確認、薬液の調製、ワクチンの接種、接種後の経過観察を行いました。

急な決定だったため、学生の接種時間の調整や欠席による薬液の廃棄回避に苦慮しましたが、対象者となる94%の方に2回の接種を終えることができました。

学生からは、「緊張したけどいつも授業をしている先生が接種してくれたので安心した。」「通学時に感染するのが怖かったけれど、ワクチンを接種したので少し安心した。」「これで安心して就職試験に行ける。」という声がありました。

## 日本赤十字 九州国際看護大学

### 「DX推進計画」のもとキャンパスのDX化が加速

昨年度に引き続き、感染対策のため面接とオンラインを併用したカリキュラム運用となりましたが、コロナ禍でも最大限の学びが得られるよう全学的な取り組みを進めています。

今年度は、質の高い教育とICTの活用を柱に掲げた第三次中期計画のさらなる実現に向け「DX推進計画」を策定し、設備・教材等の充実、教員のICT研修など、DXの加速化を図りました。個々の学生の特性に応じた学修支援や即応性のある授業が可能となる学習支援システム（Moodle）の活用や、同じ授業をオンラインでも対面でも受講できるハイフレックス型授業が可能となる大講義室への最新映像・音響機器の整備等を進め、Webカルテや高機能シミュレーター、VRなどを用いた授業を行いました。

令和４年度からは、電子教科書を導入予定です。学生自らが学習状況を確認して成長を実感し、仲間や教員と共に分かち合えるキャンパスづくりを目指します。

VR実習の様子

高機能シミュレーターを用いた
学内実習の様子

# 日本赤十字学園第三次中期計画
（令和元年度～令和5年度）

## ～学園大学間の連携推進～

日本赤十字学園は、平成21年度から令和3年度までの13年間に3つの中期計画を策定しました。

第一次中期計画（平成21年度～25年度）では、各大学の四大化が完了し、すべての大学に大学院修士課程が設置されるなど大学教育の基盤が構築されました。

第二次中期計画（平成26年度～30年度）においては、各大学の教学機能、事務機能の向上により、内実の伴った大学組織を構築するとともに、質の高い教育、研究活動に不可欠な安定的な経営基盤の確立を目指し、5つのビジョン（目指すべき大学のイメージ）を掲げ、事業取組の指針として各事業に取り組みました。

第三次中期計画（令和元年度～5年度）は、計画策定に際して、近年の文部科学省の教育行政施策の動向及び公益財団法人大学基準協会が示す大学評価の項目等を視野に入れつつ、学園各大学の教育環境の維持・向上に資することとして、内部質保証体制の確立を明記しました。さらに、情報通信技術（ICT）を活用した教育の提供、就学意欲のある社会人に対する教育環境の確保のための取組み、年々指導が強化される収容定員の管理等の重要性が高まっていることから、これらの事項を念頭に置きつつ、次の6項目を目標に掲げ、事業への取組みの指針とします。

### 日本赤十字学園第三次中期計画ビジョン

1. 質の高い教育を実践する大学
2. 情報通信技術（ICT）を活用した教育を実践する大学
3. 学園大学間の連携を活かした大学運営
4. 地域社会との連携及び社会貢献へ積極的に取り組む大学
5. 健全な経営基盤に立つ成長する大学
6. さいたま看護学部の開設及び安定運営

## 1 新型コロナウイルス感染症への対応について

令和３年度においても依然として新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、当学園の各大学は、学生の学修機会の確保と感染対策の徹底の両立を図るための様々な工夫を講じてきました。

授業に関しては、地域差はあるものの、どの大学も昨年度よりも対面授業の比率を高めることにより学生の学修機会の一層の確保に努めてきました。一方でICT推進の観点から今後も遠隔授業が必要となるため、遠隔による講義も効果的に取り入れています。

病院等で実施する臨地実習においては、大学での感染制御、感染予防の演習を行ってから実習に入る等の対策も講じてきました。またオンライン実習を余儀なくされる場合においても、模擬患者を想定してアセスメントを高める内容を展開する等の工夫を講じて対応しました。

地域連携の取り組みとして、各自治体からの要請に基づき、新型コロナウイルス感染症支援として各大学の教員を保健所や、集団接種会場、軽症者宿泊療養施設等へ派遣しました。また、大学の講義室、体育館等の会場を提供し医師、教員による職域接種等も実施しました。当該支援を通じて地域の現状を知るとともに、地域との連携体制を強化することができ、教員にとっても非常に有益で学び多い体験となりました。

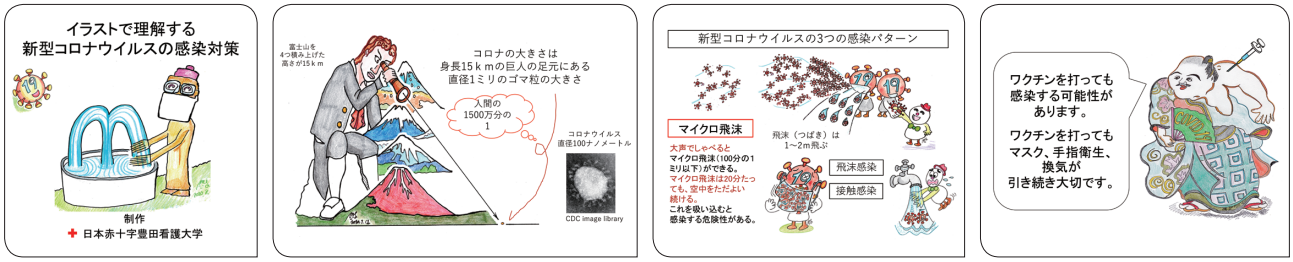
引き続き、各大学では、赤十字の理想とする人道の理念を基調とする強みを生かし、地域社会への貢献、自治体等への協力促進を図ってまいります。

### オンライン授業の様子

### 実習の様子

### 接種会場の様子

### 感染予防に関するDVDの上映（接種後の待機場所にて）




「日赤豊田看護大学ICD作成の市民向け感染症対策周知用イラスト」

## 2 入学者数等の状況

令和３年度の入学者数は、６大学７学部で合わせて821名、短期大学21名、大学院では修士課程82名、博士課程16名となりました。また、卒業者数については、学部761名、短期大学12名、大学院修士課程64名、博士課程11名となりました。

手渡しの看護を

# 日本赤十字北海道看護大学

設置学部等　看護学部／大学院

電　話　0157-66-3311　　住　所　北海道北見市曙町664-1

学長

河口 てる子

コロナ禍も2年目になり長期の様相となったことから行事や授業形態等を再考しました。感染対策を十分にとって入学式・卒業式などは挙行すること、可能な限り臨地実習を確保すること、必要時遠隔授業を行うものの1学年2教室を情報機器で繋いだ対面授業を実施することとしました。コロナによる影響は学生にとって大きいですが、北見市から2年続けて学生への支援金として500万円を頂き、後援会および本学の資金と合わせ学生1人あたり3万円を支給することができました。また、食券配布や連合北海道網走地域協議会・JAきたみらいなどから多くの食品を学生に提供していただきました。本学は地域貢献として、地元北見市の32の委員会に委員をだし、連携協定を結び、出前講義等で地域と親密な交流をしております。この点は、大学基準協会の認証評価でも、評価委員に驚かれるほどで、非常に高く評価されました。

また、本学教職員はコロナ禍での保健所の積極的疫学調査、地域の職域・集団接種など北見市および周辺地域の健康・医療に資する活動ができました。

## 大学基準協会による認証評価が実施されました

本学では、認証評価機関である公益財団法人大学基準協会に大学評価の申請を行い、令和4年3月に認定を受けました。コロナ禍のため実地での評価ではなく、感染対策としてZoomにて、10月17日、18日と二日間にわたり実施されました。

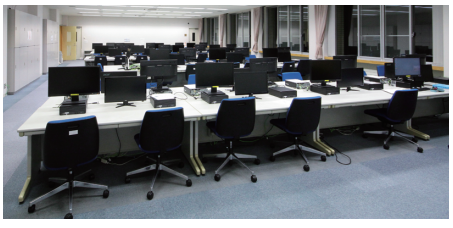
総評では、何点かの改善課題はあったものの、平成27年4月に開設された「災害対策教育センター」を中心とする社会連携・社会貢献活動に積極的に取り組み、教育・研究・産学連携にもつながっている点なども挙げられ、「厳冬期災害演習」など地域に根ざした特徴的な活動は、優れた取り組みとして高い評価を得ました。また、評価委員と学生の面談では「コロナ禍でも臨地実習が出来るよう実習施設と先生方が迅速に調整していただき大変ありがたかった」という声もあったと聞いております。

Japan University Accreditation Association since 1947
UNIVERSITY ACCREDITED 2022.4～2029.3

認定マーク（日本赤十字北海道看護大学）

## 情報処理教室など端末PCのOSを更新

学内に設置・整備している端末PCやサーバーを更新しました。教職員が使用している端末PC61台、情報処理教室や学びの広場に設置している端末PC140台、そして学内システムを管理しているサーバーを最新OSのものに更新し、ネットワーク環境の整備によりインターネット閲覧やファイルサーバーへの接続レスポンスが大幅に向上しました。コロナ禍により物品調達が困難な状況にあり、1年延期としながらも計画的に導入を進め、また、メールや学内情報共有システムでは、今回初となるクラウド化に伴い、約2ヶ月間に渡るシステムの更新作業を完了しました。



情報処理教室など端末PCのOSを更新

## 地元北見保健所へ積極的疫学調査の支援

新型コロナウイルス感染症が北海道内でも広がりをみせた頃、各市でクラスターが発生したことをうけ本学の教員5名が計31回にわたり積極的疫学調査に従事しました。7月～8月に地元北見市で発生した飲食店でのクラスターでは、昨年度に旭川市保健所へ支援を行った経験を踏まえ、北見保健所へも支援に向かいました。北海道で唯一、国のステージ4を超えた北見市には、北海道庁からも感染症対策局の幹部職員が来られている状況のなか、支援にあたりました。さらに令和4年2月にも北見保健所への支援を行い継続的な支援を行っています。

地元北見保健所へ積極的疫学調査の支援

## 学生に向けた食の支援を実施

新型コロナウイルス感染症による感染拡大防止の影響により、親や家計に負担をかけたくない学生やアルバイトが出来ず収入が減ってしまった学生へ「食の支援」を計3回にわたり実施しました。支援では連合北海道網走地域協議会やJAきたみらいより、お米や乳製品、インスタント食品など、多い時で20品にも及ぶ支援を行いました。実施には、本学の学生自治会も手伝いとして協力しました。

また、本学の食堂を利用する学生も多いことから、食堂で利用できる食券を全ての学生へ配布するなど、本学の学生に向けた食の支援を実施しました。

学生へ向けた食の支援を実施

学生に経済的支援を行いました

## 学生に経済的支援を行いました

本学では、長引くコロナ禍で支援を必要としている学生のために「給付型支援金」として、6月に学生へ給付をしました。感染症拡大による影響で、世帯収入やアルバイト収入の大幅な減少により、学生生活にも経済的な影響が顕著となっている状況の中で、大学での修学の継続が困難になっている学生が修学をあきらめることがないよう、北見市から新型コロナ追加経済対策として「学生の生活支援事業」のご支援を頂きました。この支援金を含め、本学から学部生に3万円、大学院生に2万円を給付しました。

## 病院のご協力を頂き実施した臨地実習

全国の看護系大学では、臨地実習がすべて学内に変更された大学が約74%と多く、非常に厳しい状況の中、実習先病院のご理解とご協力を頂き、本学では臨地実習の全面受け入れ、または一部受け入れが約96%と高い状況で実習を行うことが出来ました。

また、助産実習では、地域的にも分娩を取り扱う施設が少なく、少子化に伴い分娩症例も減少しているなか、正常分娩10例の介助を行うために、実習先病院のご理解やご協力を頂きながら実習を行うことが可能となりました。

病院のご協力を頂き実施した臨地実習

## 学生自治会主催による花火大会を開催

コロナ禍により、大学祭など学生による行事が行えないなか、本学の自治会主催による花火大会が10月9日に開催されました。

学生自治会主催による花火大会を開催

新型コロナウイルス感染症の流行から約2年が経ち、感染力の高い変異株が発見され、さらなる緊張も高まっているなか、「収束に向けともに頑張っていこう!」という想いを再確認するために企画されました。娯楽が制限されているなか、多くの学生や教職員、地域の方が感染対策を講じながら花火の打ち上げを楽しんでいました。

## 感染対策と工夫で実現したオープンキャンパス

7月18日と9月13日にオープンキャンパスを開催しました。開催には新型コロナウイルス感染防止対策として、3密を防ぐよう模擬授業の会場を講堂に変更したり、演習体験の方法を工夫するなどし、参加人数を上限200名と制限した上での開催でしたが、遠方から来られた学生からは「来て良かった」との声もありました。

また、開催を目前に地元の高校で感染者が発生し、来学を予定していた高校の生徒全員が訪問を辞退することとなりました。これを受け本学では急遽3回目のオープンキャンパスを実施し、生徒や保護者、高校側から感謝のお言葉を頂きました。

感染対策と工夫で実現したオープンキャンパス

「生きる」を支える人になる

# 日本赤十字秋田看護大学
# 日本赤十字秋田短期大学

設置学部等　(大学)看護学部／大学院　(短期大学)介護福祉学科

電　話　018-829-4000　住　所　秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3

学長
**原 玲子**

今年度は、大学、短大ともに、「学修成果の可視化」に向けた取り組みをFD・SD等を通して進めてきました。大学院教育では、「がん看護学」「精神看護」のCNS課程について、「職業実践力育成プログラム」として文部科学省の認定、さらに、「専門実践教育訓練」の講座として厚生労働省の指定を受け、教育の充実を目指しています。

秋田県に創設された「SDGsパートナー登録制度」に登録し、SDGsの「見える化」を検討しています。また、秋田銀行とも包括連携協力協定を締結し、地域連携を図ることとなりました。秋田県保健所における専門職の不足に対して、教員を派遣し、新型コロナ陽性者への電話による相談対応など、連携協力もしています。

コロナ禍が長引く中、今年度も、オンライン授業と対面授業を組み合わせて実施し、教員も学生も柔軟に対応し、学びを止めない努力をしてきました。文部科学省より公募のあった「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に大学の計画が選定され、次年度に向けて、スタートを切ったところです。

## 地域包括シンポジウム

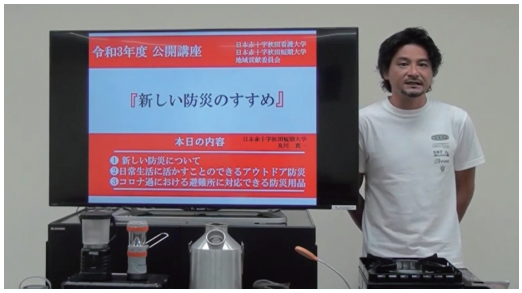
11月9日に看護大学・短期大学合同イベント「地域包括シンポジウム」を開催しました。このイベントは、高齢化が進行する秋田県において将来、地域医療・福祉に携わる専門職となる学生に対し、毎年開催しています。国が構想する地域包括ケアに携わる各分野の専門職となるにあたり必要な能力、および自己課題について気付く機会とすることを目的としており、看護学部看護学科2年生および介護福祉学科2年生が参加しました。

地域包括シンポジウム

## 看護学部合同病院就職説明会

12月9日に、看護学部の学生を対象とした看護学部の合同病院就職説明会を行いました。今回は、秋田県内にある12の病院から参加いただきました。看護学部の卒業生も、病院で働く「看護師」として説明会に参加し、後輩たちに熱心に話をしていました。

看護学部合同病院就職説明会




令和3年度公開講座

## 令和3年度公開講座

今年度の公開講座は新型コロナウイルス感染状況をふまえて、初めてオンライン(YouTubeを活用したオンデマンド配信)での開催となりました。

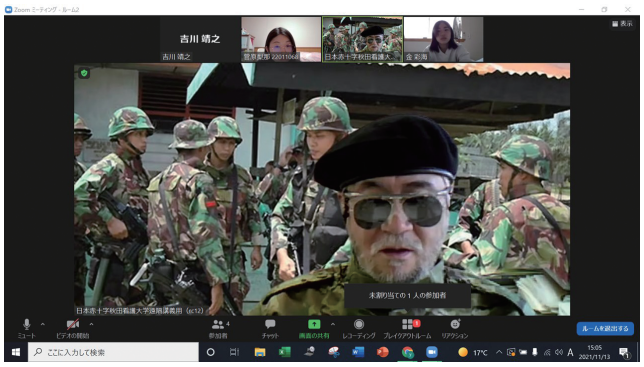
第1回は本学介護福祉学科 及川真一講師による「新しい防災のすすめ」、第2回は佐藤高輝氏(特定非営利活動法人FORECIA代表)による「秋田の未来を考える いのちを育むプレコンセプションケア 不妊治療と仕事の両立」と題した講演となりました。

## 国際活動体験ツアー2021

2年ぶりとなる国際活動体験ツアーを開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染対策のためオンライン開催となり、12名の学生が参加しました。

当日は海外の赤十字スタッフやコーディネーターとも中継を結び、現地から生の報告もあるなど、オンラインを活用したプログラムも展開されました。

学生からは積極的な意見や質問があり、講師の方々の熱い思いが伝わる充実したツアーとなりました。



国際活動体験ツアー2021

## 秋田県SDGsパートナー登録

11月に、本学は秋田県SDGsパートナー登録制度により、同パートナーとして登録されました。

赤十字の人道を理念として、女性職員の積極的な管理職への登用や障がい者の雇用など多様性に配慮した働きやすい職場環境づくりを進めながら、省資源・省エネルギーの推進など環境に配慮した経営を行うとともに、防災活動などボランティア活動を支援し、持続可能な地域社会の実現に貢献していきます。

秋田県SDGsパートナー登録証

## 株式会社秋田銀行と包括連携協力協定を締結

本学と株式会社秋田銀行は、包括連携協力協定を締結しました。

本協定の締結により、相互が持つ知的・人的資源等を共有するとともに、学生における県内就職・定着の促進に向けて、より一層の連携強化をはかります。

今後も産学官連携協力を促進し、地域社会の持続的成長および発展に貢献していきます。

## 令和3年度 第8回 認知症看護認定看護師フォローアップ研修

昨年度に引き続き、今年度の認知症看護認定看護師フォローアップ研修もオンラインでの開催となりました。

昨年度の出席者よりリクエストが多かったアドバンス・ケア・プランニングの課題についてをテーマに開催され、15名の参加がありました。

午前は講義、午後はグループワークを中心としたプログラムで、参加された方々にとって貴重な学びの機会としていただけたようでした。

## 大学院修士課程の教育課程「職業実践力育成プログラム（BP）」認定、「専門実践教育訓練講座」指定

本学大学院修士課程の2つの教育課程（高度実践看護学分野（がん看護学）、高度実践看護学分野（精神看護））が、12月21日付けで文部科学省の令和3年度「職業実践力育成プログラム（BP）」として認定を受けました（令和4年4月以降に開講する課程について有効）。

また、厚生労働省より「教育訓練給付」の対象となる「専門実践教育訓練講座」として、新たに指定を受けました（令和4年4月1日付指定）。

日赤短大「おとなの学校見学」

## 日赤短大「おとなの学校見学」

2月15日におとなの学校見学を開催しました。

イベントでは、マンツーマンでの個別相談・学内見学を行い、和やかな雰囲気の中で、参加者の皆さんとたくさんのお話ができました。

授業の内容や資格の取得、学校生活や入学試験など、本学についての理解を深めていただく良い機会となりました。

広尾キャンパス

大宮キャンパス

Vision for Humanity―人道の実現に向けて

# 日本赤十字看護大学

設置学部等　看護学部／さいたま看護学部／大学院

（広尾キャンパス）電　話　03-3409-0875　住　所　東京都渋谷区広尾4-1-3

（大宮キャンパス）電　話　048-799-2747　住　所　埼玉県さいたま市中央区上落合8-7-19

学長

守田 美奈子

本学は令和2年度にさいたま看護学部を開設し、2つの学部と研究科をもつ大学となりました。これに伴い大学内の管理運営体制の再整備や内部質保証体制等を強化してきました。また日本赤十字社との連携のもと、日本赤十字看護大学附属災害救護研究所を新たに設置しました。本学は大きな変革の只中にありますが、新型コロナウイルス感染拡大下にあっても、質の高い教育、研究を実施できるよう様々な取り組みを行っています。具体的には、広尾ホールを教室とするなどの工夫により、対面授業の比率を増やしました。実習も困難な状況は続きましたが、教職員がWebを活用した演習・実習の方法等を工夫し対応しています。大学院では今年度8名の博士学位取得者を輩出することができました。社会貢献・活動も再開でき、臨床指導者研修会や公開講座やラ・ソース大学、スウェーデン赤十字大学等、海外との交流等もZoomを用いて実施できました。

次年度もICTを効果的に活用しながら、より質の高い教育、研究の実現、大学組織のさらなる発展を目指したいと思います。

## 実習について（広尾）

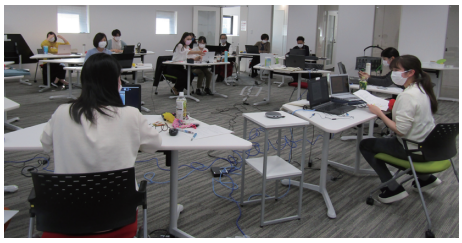
コロナ禍の中、少しでも多くの臨地実習の機会を調整し、遠隔・学内実習も組合せて実習を行いました。実習先とWebでつながり、直接高齢者と交流する機会や小児科病棟の様子を知る機会等、現場の臨場感をより感じる体験を工夫しました。臨床実習では緊張が強かった学生も、シミュレーションの中で思考や実践を振り返り、看護の大切さに気づいていました。臨地実習との組合せによる方法が学習効果を高めることがわかりました。

## オンラインでの継続教育セミナーの開催（広尾）

地域連携フロンティアセンター主催の「備え、対応する―健康に暮らすために―」というメインテーマのもと、9～11月の期間に3回オンラインでセミナーを開講しました。（第1回『災害後の健康被害に備える』、第2回『災害時に起こりうる身体機能の変化や症状、予防について身体運動の観点から～QOLを高める！椅子に座ったままできる、かんたん体操の実演～』、第3回『原発事故災害により避難を強いられた人々の健康と支援』）

## コロナ禍の大学祭・キャロリング：学生たちの創意・工夫

大学祭は、本年度から大宮キャンパスでも独自に11月上旬にWebにて（第1回プリムローズ祭）開催し、模擬授業やクイズ大会等を行いました。また、広尾キャンパスでも、創意工夫して11月下旬にWebにて（クロア・ルージュ祭）開催しました。合唱ができない状況下でのキャロリングは、学生たちが作成した「クリスマスカードと飾り」や「クリスマス動画」を届ける等、感染リスクに配慮のうえ創意・工夫をして実施しました。


プリムローズ祭（大宮）配信

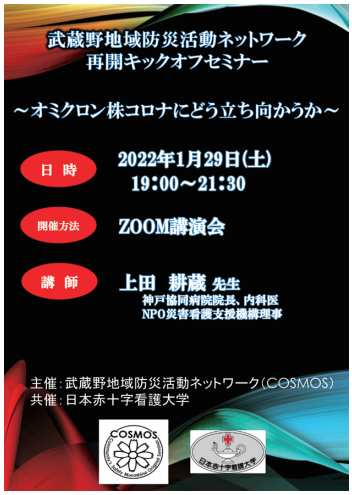
継続教育セミナー（健康体操）

## オンラインでの継続教育セミナーの開催（大宮）

さいたま看護学部においては、地域の皆さんと一緒に目指す健康な街づくりをテーマに2月27日に第1部『科学的根拠に基づく自然と健幸になれるまちづくり』、第2部『椅子に座ったまま！誰でもできる健康体操』をオンラインで開催し、地域に開かれた大学を目指した取り組みを行いました。

## オンラインでの継続教育セミナーの開催（武蔵野）

武蔵野地域防災活動ネットワーク（COSMOS）の再開キックオフセミナー『オミクロン株コロナにどう立ち向かうか』を1月29日にオンラインをもって開催し、Zoomシンポジウム『武蔵野地域防災活動再開キックオフセミナー』を3月19日に開催しました。




武蔵野地域防災活動再開キックオフセミナー（チラシ）

## H.E.L.P. in Tokyo 2021の開催

H.E.L.P. in Tokyoを日本赤十字社本社、赤十字国際委員会と連携して、11月15日～26日（20・21日除く10日間）オンラインにより開催しました。参加者は8か国23名の保健局等の団体職員や看護師等でありました。

※自然災害や紛争などの被災地で行う人道援助に必要とされる知識、倫理的行動規範を学び、問題解決のための知見や判断力の修得を目指す研修プログラム。

H.E.L.P. in Tokyo配信

## コロナ禍での国際交流

大学間交流協定による交換学生・教員の派遣・受入は、コロナ禍の影響により、中止としました。その代替として3月23日にZoomによる3か国（本学、スウェーデン赤十字大学、ラ・ソース大学）の学生がプレゼンテーションやディスカッションを行うオンライン交流会を開催しました。

災害救護研究所キックオフセミナー（チラシ）

## 日本赤十字看護大学附属災害救護研究所設置

6月に本学附属「災害救護研究所」を発足しました。環境変化や地球規模での自然災害の多発等、災害への体制整備はグローバルな課題と認識されています。本研究所は、赤十字をはじめ国内外の災害救護に関する知を集積し、未来へ新たな知を創造し発信する場として設置され、日本赤十字社富田博樹副社長兼・所長、井村真澄副所長のもと9つの研究部門が置かれ、各部門長以下、総勢29名の研究員が所属しています。

## 図書館のリモートサービス強化

看護学部の広尾館、さいたま看護学部の大宮館の連携体制を維持しつつ、感染対策を行い、感染状況を考慮した上で、通常開館に戻す等昨年度と比べ、利用できる時間を増やす等の対応をしました。また、教職員・学生に対して、ポータル・定期配信や「広尾館だより」「大宮館だより」の発行によりタイムリーな情報発信に努めました。

## 感染対策

コロナ禍において、昨年度に引き続き、大学内の全部署にはアルコール消毒剤等を設置し、昼食の時間帯は特に感染リスクが高まることから、教職員によるラウンド等による注意喚起を行いました。また、学生が集まるラウンジに保護者会の助成による空気清浄機を複数台設置するとともに、学年全員が一定の距離を保ちながら、授業を行えるよう広尾ホールを使用し、学修環境を整えるため、学修専用の椅子や机等の整備を行いました。

地球に寄り添う看護

# 日本赤十字豊田看護大学

設置学部等　看護学部／大学院

電　話　0565-36-5111　住　所　愛知県豊田市白山町七曲12-33

学長
鎌倉 やよい

本学は、人道を基盤とした赤十字の思想を涵養する理念のもと、看護学基礎教育、大学院では高度な看護実践能力並びに研究・教育能力の育成に取り組んでいます。日本赤十字学園第三次中期計画のもとに令和3年度計画を立案し、これに基づく施策を実施し、概ね達成されました。

なかでも、教学マネジメントとして、教育の質保証システムに基づきPDCAサイクルを円滑に動かし、アセスメントポリシーに基づいて評価し、その結果を年報に集積する一連の仕組みができました。一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が繰り返されました。本学では、感染制御に関する教育、感染予防に関する演習の提供、学内の感染予防対策の徹底などを行い、臨地実習の確保、対面授業とオンライン授業の調整など、教育の質保証に努力してきました。

さらに、「人道」の理念に基づく地域貢献として、豊田市のワクチン接種に会場提供と看護教員による人的支援を行い、本学の会場で11,811名の市民にワクチン接種を行うことができました。今後とも尽力してまいります。

## オンラインツールを使用した国際交流活動

本学はタイ赤十字看護大学と看護に関する交流及び教育研究協力を行う覚書を交わし、平成29年より交流を行っています。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け対面での交流が難しいため、昨年度よりオンラインでの交流を実施しています。今年度は7月と1月に開催し、合わせて本学生23名、タイ学生約80名が参加しました。互いの国の文化や挨拶等について発表し合い、和気藹々とした雰囲気で交流しました。

タイ赤十字看護大学生とのオンライン交流

## Digital Transformation：DXの推進

本学では、デジタルトランスフォーメーション（DX）に力を入れています。今年度は「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に申請し、選定されました。

今後ワイヤレス超音波画像診断装置、ハイブリッドシミュレーター、携帯型タブレットを用いた遠隔実習指導を教育現場に導入し、新たな時代の医療に対応できる人材を育成します。

## 新規履修証明プログラム「災害看護実践プログラム」の開講及びBP認定について

令和4年度より新たな履修証明プログラムとして、「災害看護実践プログラム」を開講します。本プログラムは、災害により影響を受けている多様な場において、災害への備え、発災時の対応、復興まで、実践的に活動できる看護職の育成を目指す実践プログラムです。文部科学省の「職業実践力育成プログラム（BP-Brush up Program for professional）」として申請を行い、認定を受けています。

## 「ディプロマサプリメント（学位証明補助資料）」の発行について

本学では、卒業時の能力を客観的にはかる指標として「ディプロマサプリメント（学位証明補助資料）」を作成し、今年度の卒業生に対して発行することにしました。ディプロマサプリメントは、正課活動の成果（総取得単位数、GPA、取得資格、卒業研究テーマ）、科目区分毎のGPA、ディプロマポリシーのGPA、看護技術の学修成果、正課外活動の成果（クラブ・サークル活動、ボランティア活動）で構成し、大学在学中に正課内外の多様な活動を行ったという学修成果を証明するものです。

## 多様化する広報

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で対面のオープンキャンパスが開催できませんでした。今年度は2年ぶりに対面での開催ができました。

オープンキャンパス体験デモ

また、昨年度から開始したHP上で授業や行事の紹介をするWebオープンキャンパスを今年も継続。さらにオンラインでの個別相談会も行い、対面、オンラインと幅の広い広報を行いました。これにより志願者が昨年比100名以上の増となり、中部ブロック以外の地域からの志願者も、12名から29名に増え、全国から学生を確保することができました。

## ブラジル人学校での身体測定会

本学は豊田市のブラジル人学校EAS（Escola Alegria de Saber）で身体測定会を定期的に行っています。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催できず、2年ぶりの開催となりました。今回は幼稚園児から小学5年生の児童41名を対象に、身長、体重、握力、血中の酸素濃度を測定しました。ブラジルでは握力を測る文化がないためか、児童たちも不思議そうな表情を見せていました。

EAS身体測定会

## SDGsへの貢献（フードドライブ）

8月3日に本学のセミナールームを会場として豊田市環境部ごみ減量推進課主催のフードドライブが開催されました。フードドライブとは、家庭で消費ししない食品を集め、集まった食品を必要とする方に提供することで食品ロスを削減する取り組みです。また、食品の貰い手として参加することも社会や地域が目指すSDGsへの貢献となります。

本学では密を避けるため「フードドライブスルー」と銘打ち、一方通行で受け取る仕組みで開催し、多くの学生や教職員が参加しました。

フードドライブスルー

公開講座「知って安心、認知症のこと」

## 地域の健康促進

本学では、地域の健康促進を目的に、地域住民を対象とした公開講座、医療従事者を対象とした専門職向け研修会を開催しています。今年度は2回の公開講座、4回の専門職向け研修会を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、対面式での開催が難しい時期もありましたが、オンラインに切り替えて開催するなど、工夫をして無事開催することができました。

“人道”の心で人とつながる看護を学ぶ

# 日本赤十字広島看護大学

設置学部等　看護学部／大学院

電　話　0829-20-2800　住　所　広島県廿日市市阿品台東1-2

学長
田村 由美

本学は、赤十字の中国・四国ブロックにおける拠点校として、保健医療活動をはじめとして災害救護活動、国際救援活動など広く社会に貢献できる人材の育成と看護に関する幅広い能力を備えた赤十字看護師の育成に取り組んでいます。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、地域の医師会のご協力を得て、学内施設を利用した巡回診療形式で、学生及び教職員へ新型コロナウイルスワクチンの集団接種を2度実施しました。

また、地域の自治体や旅館業組合等からの様々な要請を受けて、集団接種会場等へ看護教員や学生を派遣し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に貢献しました。

また、今後顕著となる少子化・高齢化社会で、本学が地域にどのような役割を果たしていけるのかを改めて考えるため、ヒューマンケアリングセンターの在り方検討会を設置し、議論を進めております。

引き続き新型コロナウイルス感染症の終息まで辛抱強く向き合いつつ、より一層、ヒューマンケアリングに基づく看護を実践できる人材の育成を目指してまいります。

## 「安芸の宮島」職域ワクチン接種への協力

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている日本三景「安芸の宮島」の旅館業組合・商工会・観光協会の皆さんは早期の復活を期してワクチン職域接種に取り組むことを決め、本学に支援を求めてこられました。

本学は、地元への地域貢献として全面的な協力態勢をとり、6月から8月にかけた10日間で延べ60名の看護師資格を持つ教員と大学院生の有志が、予診、薬液調製、接種、経過観察に従事しました。また、本学教員は、他の医療機関から派遣された看護師も含めた混成チームの統括責任者も務めました。

接種後の方への声かけ

## 模擬患者さんがオンライン演習に参加

本学では看護学演習に模擬患者役として登録ボランティアさんに参加していただいていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で演習参加が困難なことから、オンラインでの演習参加を試みました。

画面へ向かってロールプレイを行うボランティアの方

事前に研修を2回に分けて行い、演習には29名の方にご参加いただきました。参加者からは「臨場感がでにくい」などの意見もありましたが、「一人の学生に集中できるのでやりやすい」「もっと練習をしてうまくなりたい」といった前向きな意見も多く聞かれました。

今後も、様々な形の研修方法を取り入れ、模擬患者さんと共に本学の看護教育の質向上に向けて取り組んでまいります。

## 中国・四国ブロック各県支部・病院連絡協議会を開催

10月29日、令和3年度中国・四国ブロック各県支部・病院連絡協議会をオンライン（Zoom）で開催しました。本学の看護教育の取り組みについて説明し、中国・四国各県の赤十字病院からは、ワクチン接種を含めた新型コロナウイルス感染防止対策や、臨地実習ができないなかでの工夫・課題や、卒業後に看護師として配属された後まで見据えた継続教育について、活発な議論が行われました。

中国・四国各地とオンラインで接続

## 学生広報チームの発足

学生の視点や発想を活かした広報活動の強化の一環から、今年度、学生広報チーム「日赤広島看護大ぴーあーるLABO」(略称：ぴーあーるLABO)が発足しました。

リーダーからは、「メンバーと教職員と一緒に、本学の魅力を一つでも多く発信していけるように頑張っていきたい」との決意表明があり、令和4年5月には、「ぴーあーるLABO」が企画･主催するオープンキャンパスを実施する予定です。

発足式で委嘱状を手に決意を誓う

## 土砂災害被災地で教員・学生が支援活動

8月、集中豪雨により全国各地で土砂災害が発生し、広島県でも大きな被害を受けました。本学では教員･学生が現地に入り、教員は医療保健分野の専門家として活動し、学生は災害ボランティアとして被災した家屋の片付けなどの支援活動に参加しました。

今後も本学は被災地支援に積極的に協力するとともに、災害への備えをより一層強化していきます。

被災地で活動する学生ボランティア

## 認定看護師教育課程（摂食・嚥下障害看護）

摂食･嚥下障害看護認定看護師教育課程では、コロナ禍においても感染対策を心掛け、臨時実習を含めたすべてのカリキュラムを修得した令和3年度履修生15名が課程を修了し、平成21年度の開講以来、309名の修了生を輩出いたしました。なお、当課程は令和4年度から休講の予定です。

実習の様子

## コロナ禍での図書館の対応

図書館は閲覧机のパーティションを改修するなど感染防止措置を講じ、短縮していた開館時間を10月中旬に通常時間へ戻しました。併せて長時間の滞在や密を避けるため、自宅等の学外からもアクセス可能な電子ブック「メディカルオンラインイーブックスライブラリー」を導入、電子資料の充実を図りました。

図書館の利用は学内者に限定してきましたが、感染状況に落ち着きがみられた11月～12月、3月(計6日間)に学外者の利用を予約制で再開し、計15名の来館者がありました。

改修された閲覧机のパーティション

海外から様々な講師が講義

## オンライン会議システムを活用した国際的な授業展開

国際看護学などの授業では、国際機関の具体的な活動を理解するためにパプアニューギニアで活動するWHOスタッフからCOVID19支援について紹介してもらったり、異文化理解のために、インドネシア国立イスラム大学看護学部の先生からイスラム文化と看護について講義をしてもらったりしたほか、中国やコスタリカの先生からも講義をしてもらいました。文化を超えた看護のリアリティや、同じ英語でも様々なアクセントがあることなど、国際的な現場感覚を直接伝えました。

ひとりを看る目、その目を世界へ

# 日本赤十字九州国際看護大学

設置学部等　看護学部／大学院

電　話　0940-35-7001　住　所　福岡県宗像市アスティ1-1

学長
小松 浩子

新型コロナウイルス感染症という世界的な健康危機が続いています。本学では、赤十字の「人道」の理念のもと、学生・教職員が一丸となり人々の命と尊厳を守るための学びを深める一年を過ごしました。危機をチャンスに！を念頭に、質の高い効果的な教育を探究するため、DX推進計画を策定し、ICTや多様な教育方法の活用により、学生自らが主体的に学習を進め、成長を実感できる教育・研究環境の改革を推進しました。その成果として文部科学省「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」など複数の補助対象事業に採択されました。閉塞感のある社会で地元に根差した本学の使命は大きく、宗像市・福岡教育大学との連携・協働事業「大学生とつくる元気なまちプロジェクト」やイリノイ大学シカゴ校看護学部との記念講演会など、社会に開かれた大学として歩みを続けています。OSCEを用いて日頃の学習成果を競い学生・教職員の絆を深める「学長杯」を開催し、学生の逞しい成長をみることができました。今後も地域とともにある大学として尽力してまいります。

## 効果的な実習に向けての取り組み

看護部長や指導者と意見交換を行うなど赤十字病院等と連携した教育を進め、感染管理の下、学部3・4年生・大学院助産学生は全員、臨地実習を行うことができました。

学内実習では、Webカルテやシミュレーター等のICTの活用のみならず、実習施設の医療従事者にオンラインで参加いただき、患者との関係性を構築する重要性等について助言いただくなど、臨床の再現性を高め、できる限り教育効果が高まるよう工夫に努めました。

慢性看護学でのオンライン実習のようす

## 戻ってきた課外活動

長引く感染対策からサークル等課外活動の停滞が課題となり、学生自治会執行部が活動の立て直しを図りました。

その結果、バレーやバドミントンなどのサークルが復活し、学生が熱心に活動する姿がみられました。また、宗像市・福岡教育大学との連携・協働事業「大学生とつくる元気なまちプロジェクト」の一環で学生企画「ちょっと作りたくなる宗像市特産レシピ」「ちょっと歩きたくなる散歩コース」のパンフレットが完成しました。

宗像市特産レシピを調理実習室で試作する学生

## コロナ禍での就職活動を支援

就職活動を控えた3年生に対するキャリア相談会をオンライン開催しました。福岡県看護協会の大和会長から看護職のキャリアアップについて講演いただき、看護職に求められる役割やプロフェッショナルとしてキャリアについて理解を深めました。

また、コロナ禍にもかかわらず、全国の赤十字病院20施設に協力いただき、3日間のオンライン病院説明会を開催し、参加した半数以上の学生が非常に満足したとアンケートに答えました。

認知症高齢者の在宅ケアの場面をWeb配信する様子

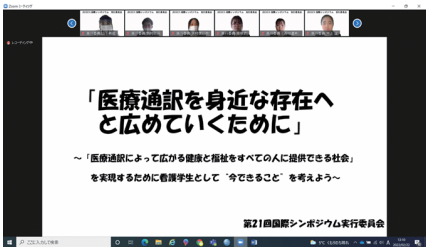
## 第１回「学長杯」を開催

卒業式直前の３月、教職員と4年生による模擬臨床現場、例えば、災害救護や認知症高齢者の在宅ケアの場面などをWeb上で再現したブースで、学年別チーム制でどのチームがベストプラクティスを展開できるか日頃の学びを競う「学長杯」を初開催しました。

驚くことに先輩チームを追い越し、１年生チームが3位に入賞しました。模擬患者役の教職員等からのフィードバックを通じ、学生も教職員も学びを深める良い機会となりました。

## 国際活動―コロナ禍こそ「その目を世界へ」―

JICA研修はトーゴ等4か国5名がオンライン参加し学生も大学紹介を行いました。協定校のナムディン看護大学（ベトナム）への講義提供のほか、イリノイ大学シカゴ校看護学部（アメリカ）と新たに協定を結び記念講演会を行いました。学生企画の国際シンポジウムは医療通訳について、国際フォーラムは中東での赤十字活動について、それぞれ講演を通じ学生・教職員が本学スローガン「その目を世界へ」向ける機会となりました。




学生企画「国際シンポジウム」の様子

イリノイ大学シカゴ校看護学部との協定締結記念講演会ポスター

## 公開講座などの地域貢献活動

地域住民や医療従事者を対象に、コロナ禍でのメンタルヘルスや災害時の看護職者の基礎知識に関する公開講座を開催し、参加者からは満足度の高い評価を得ました。

また、小学生及び高校生を対象とした看護体験講座を、看護学生がサポートするかたちでそれぞれ３回実施し、参加した小学生や高校生のみならず本学の学生にとっても、コロナ禍での貴重な体験活動となっていました。

ストレッチャーの操作法を小学生に指導する学生等

## コロナワクチンに関する取り組み

医療従事者への優先接種や一般住民向けの集団接種など、医療施設や自治体でのワクチン接種業務を支援するため、福岡赤十字病院や宗像市民を対象とした集団接種会場に継続的に教員を派遣しました。

また、福岡赤十字病院の協力のもと、学生・教職員の希望者に対する３回のワクチン接種を進め、次年度の実習に備えることができました。

福岡赤十字病院
福岡赤十字病院
福岡赤十字病院

## 学生の動向

# 1 入学者の状況（令和3年5月1日現在）

令和3年度の学部入学者数は、6大学7学部で合わせて821人でした。また、大学院は修士課程82人及び博士課程16人、短期大学は21人がそれぞれ入学しました。

（単位：人）

| 学校名 | 看護学部 | | | 大学院看護学研究科 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入学定員 | 志願者 | 入学者 | 課程 | 専攻 | 入学定員 | 志願者 | 入学者 |
| 日本赤十字北海道看護大学 | 100 | 207 | 100 | 修士 | 看護学 | 16 | 12 | 10 |
| | | | | 博士 | 共同看護学 ※1 | 2 | 5 | 3 |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 100 | 318 | 108 | 修士 | 看護学 | 12 | 10 | 9 |
| | | | | 博士 | 共同看護学 ※1 | 2 | 0 | 0 |
| 日本赤十字看護大学 | | | | 修士 | 看護学 | 32 | 33 | 28 |
| 看護学部 | 130 | 1,352 | 141 | | 国際保健助産学 | 15 | 28 | 16 |
| | | | | 博士 | 看護学 ※1 | 8 | 14 | 8 |
| さいたま看護学部 | 80 | 799 | 91 | | 共同災害看護学 ※2 | — | — | — |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 120 | 504 | 134 | 修士 | 看護学 | 10 | 3 | 3 |
| | | | | 博士 | 共同看護学 ※1 | 2 | 4 | 3 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 125 | 488 | 131 | 修士 | 看護学 | 10 | 8 | 8 |
| | | | | 博士 | 共同看護学 ※1 | 2 | 0 | 0 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 100 | 430 | 116 | 修士 | 看護学 | 10 | 14 | 8 |
| | | | | 博士 | 共同看護学 ※1 | 2 | 2 | 2 |
| 合計 | **755** | **4,098** | **821** | 修士 | 看護学 | **90** | **80** | **66** |
| | | | | | 国際保健助産学 | **15** | **28** | **16** |
| | | | | | 合計 | **105** | **108** | **82** |
| | | | | 博士 | 共同看護学 ※1 | **10** | **11** | **8** |
| （参考）3年次編入 日本赤十字看護大学看護学部 | | | | | 看護学 ※1 | **8** | **14** | **8** |
| | | | | | 共同災害看護学 ※2 | — | — | — |
| | **10** | **19** | **11** | | 合計 | **18** | **25** | **16** |

博士課程のうち、※1は博士後期課程、※2は5年一貫制博士課程（令和3年度から学生募集停止）

（単位：人）

| 学校名 | 介護福祉学科 | | |
|---|---|---|---|
| | 入学定員 | 志願者 | 入学者 |
| 日本赤十字秋田短期大学 | **30** | **24** | **21** |

学生の動向

## 2 在学生の状況（令和3年5月1日現在）

令和3年度の在学生数については、学部学生は6大学7学部で合わせて3,179人、大学院生は修士課程192人及び博士課程109人でした。また、短期大学では34人が在学していました。

（単位：人）

| 学校名 | 看護学部 | | 大学院看護学研究科 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 収容定員 | 在学生 | 課程 | 専攻 | 収容定員 | 在学生 |
| 日本赤十字北海道看護大学 | 400 | 426 | 修士 | 看護学 | 32 | 18 |
| | | | 博士 | 共同看護学 ※1 | 6 | 13 |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 400 | 440 | 修士 | 看護学 | 24 | 15 |
| | | | 博士 | 共同看護学 ※1 | 6 | 6 |
| 日本赤十字看護大学 | | | 修士 | 看護学 | 62 | 65 |
| 看護学部 | 540 | 590 | | 国際保健助産学 | 30 | 32 |
| | | | 博士 | 看護学 | 24 | 50 |
| さいたま看護学部 | 160 | 180 | | 共同災害看護学 ※2 | 8 | 8 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 480 | 528 | 修士 | 看護学 | 20 | 18 |
| | | | 博士 | 共同看護学 ※1 | 6 | 12 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 500 | 567 | 修士 | 看護学 | 20 | 22 |
| | | | 博士 | 共同看護学 ※1 | 6 | 9 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 400 | 448 | 修士 | 看護学 | 20 | 22 |
| | | | 博士 | 共同看護学 ※1 | 6 | 11 |
| 合計 | **2,880** | **3,179** | 修士 | 看護学 | **178** | **160** |
| | | | | 国際保健助産学 | **30** | **32** |
| | | | | 合計 | **208** | **192** |
| | | | 博士 | 共同看護学 ※1 | **30** | **51** |
| | | | | 看護学 | **24** | **50** |
| | | | | 共同災害看護学 ※2 | **8** | **8** |
| | | | | 合計 | **62** | **109** |

博士課程のうち、※1は博士後期課程、※2は5年一貫制博士課程

（単位：人）

| 学校名 | 介護福祉学科 | |
|---|---|---|
| | 収容定員 | 在学生 |
| 日本赤十字秋田短期大学 | **60** | **34** |

学生の動向

## 3 卒業生の進路状況（令和4年4月1日現在）

令和3年度の学部の卒業生は761人で、そのうち443人（58.2%）が赤十字病院に就職しました。また、修士課程の修了者64人のうち17人（26.6%）及び博士課程の修了者11人のうち4人（36.4%）が、赤十字病院・赤十字関係教育機関等に就職しました。なお、学部卒業生のうち324人（42.6%）が、赤十字奨学金を受給していました。

### 【看護学部】

（単位：人）

| 学校名 | 卒業者数 | 就職者 | | | | | | 進学者（専門学校を含む） | 就職・進学以外の進路者 | 進路未定者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 合計 | 内訳 | | | | | | | |
| | | | 赤十字病院（%は対卒業者数） | | 赤十字以外の病院 | その他（行政等） | | | | |
| 日本赤十字北海道看護大学 | 102 | 93 | 70 | 68.6% | 22 | 1 | | 8 | 0 | 1 |
| （うち赤十字奨学生） | 69 | 65 | 65 | | 0 | 0 | | 4 | 0 | 0 |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 114 | 107 | 46 | 40.4 | 46 | 15 | | 3 | 0 | 4 |
| （うち赤十字奨学生） | 30 | 28 | 27 | | 1 | 0 | | 1 | 0 | 1 |
| 日本赤十字看護大学 | 149 | 138 | 104 | 69.8 | 34 | 0 | | 9 | 1 | 1 |
| （うち赤十字奨学生） | 85 | 85 | 85 | | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 133 | 128 | 77 | 57.9 | 49 | 2 | | 2 | 0 | 3 |
| （うち赤十字奨学生） | 64 | 61 | 61 | | 0 | 0 | | 1 | 0 | 2 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 164 | 159 | 89 | 54.3 | 61 | 9 | | 4 | 0 | 1 |
| （うち赤十字奨学生） | 45 | 45 | 39 | | 5 | 1 | | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 99 | 88 | 57 | 57.6 | 30 | 1 | | 9 | 1 | 1 |
| （うち赤十字奨学生） | 31 | 29 | 27 | | 2 | 0 | | 2 | 0 | 0 |
| **合計** | **761** | **713** | **443** | **58.2** | **242** | **28** | | **35** | **2** | **11** |
| **うち赤十字奨学生合計** | **324** | **313** | **304** | | **8** | **1** | | **8** | **0** | **3** |

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職者」～「進路未定者」の合計と「卒業生数」とは一致しない場合がある。

### 【短期大学　介護福祉学科】

（単位：人）

| 学校名 | 卒業者数 | 就職者 | | | | | 進路未定者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 合計 | 内訳 | | | | |
| | | | 赤十字関係施設 | 赤十字以外の医療施設 | 赤十字以外の福祉施設 | その他（行政等） | |
| 日本赤十字秋田短期大学 | 12 | 10 | 0 | 1 | 9 | 0 | 2 |

※卒業生には赤十字奨学生はいない。

## 【大学院】

### (修士課程)

(単位:人)

| 学校名 | 修了者数 | 就職者 合計 | 就職者 内訳 医療機関 赤十字病院(%は対修了者数) | | 就職者 内訳 医療機関 赤十字以外の病院 | 就職者 内訳 その他(行政・教育施設等) 赤十字関係 | 就職者 内訳 その他(行政・教育施設等) 赤十字以外 | 進学者 赤十字関係 | 進学者 赤十字以外 | 進路未定者(就職・進学以外の進路含む) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本赤十字北海道看護大学 | 4 | 4 | 1 | 25.0% | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| (うち赤十字奨学生) | 1 | 1 | 1 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 4 | 4 | 1 | 25.0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| (うち赤十字奨学生) | 1 | 1 | 1 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字看護大学 | 37 | 33 | 8 | 21.6 | 22 | 1 | 2 | 1 | 0 | 3 |
| (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 7 | 7 | 1 | 14.3 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 5 | 4 | 1 | 20.0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 7 | 7 | 2 | 28.6 | 4 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| **合計** | **64** | **59** | **14** | **21.9** | **34** | **3** | **8** | **2** | **0** | **4** |
| **うち赤十字奨学生合計** | **2** | **2** | **2** | | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** |

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「修了者数」とは一致しない場合がある。

### (博士課程)

(単位:人)

| 学校名 | 修了者数 | 就職者 合計 | 就職者 内訳 医療機関 赤十字病院(%は対修了者数) | | 就職者 内訳 医療機関 赤十字以外の病院 | 就職者 内訳 その他(行政・教育施設等) 赤十字関係 | 就職者 内訳 その他(行政・教育施設等) 赤十字以外 | 進学者 赤十字関係 | 進学者 赤十字以外 | 進路未定者(就職・進学以外の進路含む) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 博士後期課程 日本赤十字北海道看護大学 | 1 | 1 | 0 | 0.0% | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字看護大学 | 7 | 5 | 1 | 14.3 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 2 | 2 | 0 | 0.0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| **小計** | **10** | **8** | **1** | **10.0** | **1** | **2** | **4** | **0** | **0** | **2** |
| **うち赤十字奨学生小計** | **0** | **0** | **0** | | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** |
| 5年一貫制博士課程 日本赤十字看護大学 | 1 | 1 | 1 | 100.0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (うち赤十字奨学生) | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| **小計** | **1** | **1** | **1** | **100.0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** |
| **うち赤十字奨学生小計** | **0** | **0** | **0** | | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** |
| **合計** | **11** | **9** | **2** | **18.2** | **1** | **2** | **4** | **0** | **0** | **2** |
| **うち赤十字奨学生合計** | **0** | **0** | **0** | | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** | **0** |

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「修了生数」とは一致しない場合がある。

## 4 国家試験の合格状況（看護師・保健師・助産師・介護福祉士 令和4年3月25日発表）

6大学における各国家試験の新卒者の平均合格率は、看護師99.1%、保健師98.4%及び助産師100%でした。また、短期大学の介護福祉士国家試験の合格率は100%でした。引き続き各大学では、合格率100%を目指し、教育・指導を強化することとしています。

### ●第111回看護師国家試験

（単位：人）

| 学校名 | 合計 | | | 新卒 | | | 既卒 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 受験者 | 合格者 | 合格率 | 受験者 | 合格者 | 合格率 | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
| 日本赤十字北海道看護大学 | 105 | 103 | 98.1% | 102 | 101 | 99.0% | 3 | 2 | 66.7% |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 117 | 115 | 98.3 | 114 | 112 | 98.2 | 3 | 3 | 100.0 |
| 日本赤十字看護大学 | 140 | 138 | 98.6 | 140 | 138 | 98.6 | 0 | 0 | — |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 136 | 133 | 97.8 | 133 | 131 | 98.5 | 3 | 2 | 66.7 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 167 | 166 | 99.4 | 164 | 164 | 100.0 | 3 | 2 | 66.7 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 105 | 101 | 96.2 | 99 | 99 | 100.0 | 6 | 2 | 33.3 |
| **合計** | **770** | **756** | **98.2** | **752** | **745** | **99.1** | **18** | **11** | **61.1** |

### ●第108回保健師国家試験

（単位：人）

| 学校名 | 合計 | | | 新卒 | | | 既卒 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 受験者 | 合格者 | 合格率 | 受験者 | 合格者 | 合格率 | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
| 日本赤十字北海道看護大学 | 19 | 19 | 100.0% | 19 | 19 | 100.0% | 0 | 0 | — % |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 22 | 21 | 95.5 | 20 | 20 | 100.0 | 2 | 1 | 50.0 |
| 日本赤十字看護大学 | 19 | 18 | 94.7 | 19 | 18 | 94.7 | 0 | 0 | — |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 22 | 21 | 95.5 | 21 | 21 | 100.0 | 1 | 0 | 0.0 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 32 | 32 | 100.0 | 30 | 30 | 100.0 | 2 | 2 | 100.0 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 21 | 18 | 85.7 | 18 | 17 | 94.4 | 3 | 1 | 33.3 |
| **合計** | **135** | **129** | **95.6** | **127** | **125** | **98.4** | **8** | **4** | **50.0** |

### ●第105回助産師国家試験

（単位：人）

| 学校名 | 新卒 | | |
|---|---|---|---|
| | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
| 日本赤十字北海道看護大学大学院 | 1 | 1 | 100.0% |
| 日本赤十字秋田看護大学大学院 | 2 | 2 | 100.0 |
| 日本赤十字看護大学大学院 | 12 | 12 | 100.0 |
| 日本赤十字九州国際看護大学大学院 | 4 | 4 | 100.0 |
| **計（大学院）** | **19** | **19** | **100.0** |
| 日本赤十字広島看護大学（学部） | 10 | 10 | 100.0 |
| **合計** | **29** | **29** | **100.0** |

※既卒の受験者はいない。

### ●第34回介護福祉士国家試験（新卒）

（単位：人）

| 学校名 | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
|---|---|---|---|
| 日本赤十字秋田短期大学 | 11 | 11 | **100.0%** |

※既卒の受験者はいない。

## 教育活動の動向

各大学においては、学生のニーズに配慮した質の高い看護教育への取り組みを実施しています。また、短期大学では、医療・福祉の現場で活躍できる介護福祉士教育が行われています。

## 1 ICTを活用した教育の推進

平成28年度から、北海道、秋田、豊田、広島及び九州の５看護大学が連携して「大学院看護学研究科共同看護学専攻（博士後期課程）」を設置し、主にWeb会議ツールを用いた教育が実施されています。これまでに蓄積してきた赤十字の教育・研究の資源や成果を１つの「共同教育課程」を通じて有機的に機能させ、看護の発展に寄与できる研究者、教育者及び実践者の養成を目指しています。

また、令和３年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、学部等においては対面授業と遠隔授業を併用するなど、ICTを活用した教育を効果的に実施しました。

## 2 赤十字病院等と連携した臨地実習

各大学では、臨地実習科目の約7割、多い大学では９割以上を赤十字病院等と連携して実習を行っています。また、赤十字病院では、看護教員資格を取得可能な研修や臨地実習指導者養成講習会などの教育・指導に関する研修を修了した者が多く在籍し、質の高い臨地実習環境が提供されています。令和３年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、実習時間のすべてを臨地実習で実施できない場合でも、臨地実習と学内実習を併用するなど、学びの質の担保に心がけました。

## 3 大学院における専門看護師（CNS）教育課程の推進

保健・医療・福祉の発展に貢献し、看護実践の質の向上を図ることに寄与できる高度専門職業人としての看護師を育成するため、全看護大学大学院において、専門看護師（CNS）教育課程を開設しています。

令和３年度は、4看護大学で合計19人が同教育課程を修了しました。なお、CNS教育課程については、わが国の少子高齢社会や医師不足を背景に、これまでにない看護への社会からの期待に応えられるよう、令和6年度から26単位教育を38単位教育に移行する予定としています。

### ●専門看護師（CNS）教育課程を設置する大学

（単位：人）

| 学　校　名 | 教育課程名 | 日本看護系大学協議会認定単位 | 修了者数 |
|---|---|---|---|
| 日本赤十字北海道看護大学大学院 | 慢性看護 | 38 | 0 |
| | 精神看護 | 26 | 0 |
| | 精神看護 | 38 | 0 |
| | がん看護 ※1 | — | — |
| 日本赤十字秋田看護大学大学院 | がん看護 | 38 | 0 |
| | 精神看護 | 38 | 0 |
| 日本赤十字看護大学大学院 | がん看護 | 38 | 4 |
| | 小児看護 | 38 | 1 |
| | 慢性看護 | 38 | 3 |
| | クリティカルケア看護 | 38 | 2 |
| | 老年看護 | 38 | 0 |
| | 精神看護 | 38 | 0 |
| | 在宅看護 | 38 | 2 |
| | 災害看護 | 38 | 4 |
| 日本赤十字豊田看護大学大学院 | 小児看護 | 38 | 1 |
| | 精神看護 | 38 | 0 |
| 日本赤十字広島看護大学大学院 | 小児看護 | 38 | 0 |
| | 精神看護 | 38 | 1 |
| | 災害看護 | 38 | 1 |
| | がん看護 | 38 | 0 |
| 日本赤十字九州国際看護大学院 | クリティカルケア看護 | 38 | 0 |
| | 在宅看護 | 38 | 0 |
| 合　計 | — | | 19 |

※各大学とも看護学研究科看護学専攻修士課程に設置　※1は休講中

注）CNS：Certified Nurse Specialist

## 4 認定看護管理者（CNA）資格取得に向けた取り組み

３看護大学大学院（日看大・豊田・広島）では、認定看護管理者（CNA）の認定審査を受験できるコース等を設置して資格取得に向けた教育を行っており、令和３年度は３人が修了しました。

### ●認定看護管理者（CNA）認定審査の受験資格が取得可能な大学

（単位：人）

| 学　校　名 | 領域 | 修了者数 |
|---|---|---|
| 日本赤十字看護大学大学院 | 看護管理学領域 | 1 |
| 日本赤十字豊田看護大学大学院 | 看護管理学領域 | 1 |
| 日本赤十字広島看護大学大学院 | 看護教育・管理学領域（教育・研究者コース） | 1 |
| 合　計 | — | 3 |

※各大学とも修士課程に設置

注）CNA：Certified Nurse Administrator

## 5 認定看護師（CN）資格取得に向けた取り組み

日本赤十字広島看護大学では、認定看護師（CN）教育課程を開講し、令和３年度は15人が修了しました。

### ●認定看護師（CN）教育課程を開設する大学

（単位：人）

| 学　校　名 | 教育課程名 | 修了者数 |
|---|---|---|
| 日本赤十字広島看護大学（ヒューマンケアリングセンター） | 摂食・嚥下障害看護 | 15 |

注）CN：Certified Nurse

## 研究活動の動向

各大学の教員は、災害・国際看護などの看護学に関する研究、看護教育に関する研究及び赤十字に関する研究など、個々の専門性を活かした研究に取り組みました。

# 1 学園基金等による研究活動助成

「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」では、赤十字に関する研究として6件の応募があり、5件を採択しました。令和2年度からの継続事業5件及び平成30年度からの繰り越し事業1件を合わせ、合計11件の研究助成に6,010千円を交付しました。なお、継続事業及び繰り越し事業については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により研究期間を延長しています。

教員の教育・研究活動を推進するための「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による研究支援については、応募のあった1件を採択しました。令和2年度からの継続事業1件及び平成30年度からの繰り越し事業1件を合わせ、合計3件の研究助成に1,195千円を交付しました。

### ●令和3年度「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」による支援事業の状況

**【新規事業】**

| 学　校　名 | 支援事業テーマ | 研究期間 |
|---|---|---|
| 日本赤十字看護大学 | 日本航空 123 便墜落事故における赤十字の救護 | 2年 |
| | コロナ禍で展開したブレンディッド・ラーニングによる学生の学びと看護技術教育方法の検討～日常生活行動援助に焦点を当てて～ | 2年 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 新型コロナの時代の「イラストで良くわかる高齢者介護施設のための感染対策マニュアル&動画」の作成と、介護施設の職員の感染対策力を底上げする教育システムの構築 | 2年 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 摂食嚥下障害のある高齢者の嚥下調整食の選択に係る認定看護師の臨床判断の要素 | 2年 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 看護基礎教育と新人教育のシームレス化を目指した看護技術到達度サプリメントの開発 | 2年 |
| 4 大学 5 件 | | |

**【継続事業】**

| 学　校　名 | 支援事業テーマ | 研究期間 |
|---|---|---|
| 日本赤十字秋田看護大学 | 看護大学生の生活習慣と生活環境が学修成果に及ぼす影響 | 2年 |
| 日本赤十字看護大学 | 地域医療支援病院でセルフケア支援を普及させる看護職の役割モデルの検討 | 2年 |
| | 国際協力の病院医療支援事業における効果的なテクニカルアドバイザーモデルの構築案 | 1年 |
| | 戦争神経症に関する精神科医療及び看護の変遷<br>―赤十字の戦時救護活動に焦点をあてて― | 2年 |
| | 東日本大震災後に糖尿病を発症・悪化した人びとにおける生活経験の現象学的記述<br>―複合災害に見舞われた福島県相馬・南相馬地区での調査を介して― | 2年 |
| 2 大学 5 件 | | |

**【平成30年度事業のうち令和3年度へ繰り越した事業】**

| 学　校　名 | 支援事業テーマ | 研究期間 |
|---|---|---|
| 日本赤十字広島看護大学 | Appreciative Inquiry を活用した中堅看護職のリーダーシップ能力開発プログラムの検討 | 2年 |
| 1 大学 1 件 | | |

●令和3年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による支援事業の状況

【新規事業】

| 学　校　名 | 支援事業テーマ | 研究期間 |
|---|---|---|
| 日本赤十字豊田看護大学 | 場面緘黙を抱える成人当事者と家族に有効なサポートの検討 | 1年 |
| 1 大学 1 件 | | |

【継続事業】

| 学　校　名 | 支援事業テーマ | 研究期間 |
|---|---|---|
| 日本赤十字豊田看護大学 | 看護学実習における看護学生に求める主体性尺度の開発に関する研究 | 2年 |
| 1 大学 1 件 | | |

【平成30年度事業のうち令和３年度へ繰り越した事業】

| 学　校　名 | 支援事業テーマ | 研究期間 |
|---|---|---|
| 日本赤十字秋田看護大学 | 在宅への移行を見据えた病棟看護と多職種連携実践能力関連<br>―2 つの尺度を用いた関連検証を通して― | 2年 |
| 1 大学 1 件 | | |

## 2 科学研究費等競争的外部資金に係る申請・採択状況

各大学の教員は、研究活動の活性化のため、科学研究費等競争的外部資金への応募を行っています。令和3年度は、6看護大学・1短期大学で合計75件（前年度113件）の新規応募を行い、19件（25.3%, 前年度30件）が採択されました。また、助成金額の合計額は、「直接経費」が102,549千円（前年度113,878千円）、「間接経費」が28,108千円（前年度31,792千円）の合わせて130,657千円（前年度145,670千円）でした。

●令和3年度科学研究費等競争的外部研究資金に係る申請・採択状況

【大学別採択件数】

（単位：件）

| 学　校　名 | 研究代表者 | | | | 研　究<br>分担者 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 新　規 | | 継　続 | 合　計 | |
| | 申　請 | 採　択 | | | |
| 日本赤十字北海道看護大学 | 25 | 2 | 2 | 4 | 11 |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 6 | 1 | 9 | 10 | 8 |
| 日本赤十字看護大学 | 15 | 8 | 24 | 32 | 19 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 8 | 2 | 18 | 20 | 19 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 8 | 1 | 20 | 21 | 14 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 12 | 5 | 9 | 14 | 22 |
| 日本赤十字秋田短期大学 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| **合　　計** | **75** | **19** | **82** | **101** | **94** |

【大学別助成金額】

（単位：千円）

| 学　校　名 | 直接経費 | | | | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 研究代表者 | | 研究分担者 | 小　計 | | |
| | 新　規 | 継　続 | | | | |
| 日本赤十字北海道看護大学 | 1,600 | 100 | 12,534 | 14,234 | 2,520 | 16,754 |
| 日本赤十字秋田看護大学 | 400 | 1,900 | 861 | 3,161 | 948 | 4,109 |
| 日本赤十字看護大学 | 11,700 | 25,800 | 7,220 | 44,720 | 12,666 | 57,386 |
| 日本赤十字豊田看護大学 | 2,700 | 7,600 | 1,395 | 11,695 | 3,509 | 15,204 |
| 日本赤十字広島看護大学 | 500 | 12,400 | 800 | 13,700 | 3,954 | 17,654 |
| 日本赤十字九州国際看護大学 | 4,500 | 8,700 | 1,759 | 14,959 | 4,487 | 19,446 |
| 日本赤十字秋田短期大学 | 0 | 0 | 80 | 80 | 24 | 104 |
| **合　　計** | **21,400** | **56,500** | **24,649** | **102,549** | **28,108** | **130,657** |

○ 継続研究には、他大学等から当学園へ異動してきた者も含む。
○ 赤十字と看護・介護に関する研究助成、教育・研究及び奨学費基金にかかる教育・研究事業は除く。
○ 「研究分担者」とは、他の大学等の教職員との共同研究において、研究代表者ではない場合である。
○ 新規研究には、育児休暇取得に伴い補助金留保となっているもの及び前所属機関で申請されたものも含む。

## 奨学金の受給状況

6看護大学・1短期大学において、日本赤十字社各支部・施設、日本赤十字社看護師同方会、日本学生支援機構及び自治体等の141機関から、全学生の57.3%にあたる2,005人（実人数）〔延べ3,415人（昨年度より266人増）、学部・学科在学生の60.7%、大学院在学生の20.2%〕が奨学金を受けました。

そのうち、日本赤十字社各支部・施設からの奨学金は、奨学金受給学生3,415人の28.0%にあたる956人が受給しました。令和2年度より開始した「高等教育の修学支援新制度」を利用した学生は310人でした。

また、6看護大学・1短期大学における奨学金の受給総額は20億4,743万円で、一人あたり（実人数）の受給額は学部で約102万円、大学院では約86万円となりました。

### ●赤十字奨学金の大学別受給状況（令和3年度在学生の実績）

※赤十字奨学金を受給している場合に○を付しています。
また、短期大学での受給はありませんでした。

【支部からの受給状況】

| 支部名 | 日本赤十字北海道看護大学 | 日本赤十字秋田看護大学 | 日本赤十字看護大学 | 日本赤十字豊田看護大学 | 日本赤十字広島看護大学 | 日本赤十字九州国際看護大学 | 支部名 | 日本赤十字北海道看護大学 | 日本赤十字秋田看護大学 | 日本赤十字看護大学 | 日本赤十字豊田看護大学 | 日本赤十字広島看護大学 | 日本赤十字九州国際看護大学 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北海道 | | | | | | | 滋賀県 | | | | | | |
| 青森県 | | ○ | | | | | 京都府 | | | | | | |
| 岩手県 | | | | | | | 大阪府 | | | ○ | | ○ | ○ |
| 宮城県 | | | | | | | 兵庫県 | | | | | | |
| 秋田県 | | | | | | | 奈良県 | | | | | | |
| 山形県 | | | | | | | 和歌山県 | | | | | | |
| 福島県 | | ○ | | | | | 鳥取県 | | | | | | |
| 茨城県 | | | | | | | 島根県 | | | | | ○ | |
| 栃木県 | | | | | | | 岡山県 | | | | | | |
| 群馬県 | | | | | | | 広島県 | | | | | | |
| 埼玉県 | | | | | | | 山口県 | | | | | | ○ |
| 千葉県 | | | ○ | | | ○ | 徳島県 | | | | | | |
| 東京都 | | | | | | | 香川県 | | | | | | |
| 神奈川県 | | | | | | | 愛媛県 | | | | | | |
| 新潟県 | | | | | | | 高知県 | | | | | | |
| 山梨県 | | | | | | | 福岡県 | | | | | | ○ |
| 富山県 | | | | ○ | | | 佐賀県 | | | | | | ○ |
| 石川県 | | | | ○ | | | 長崎県 | | | | | | ○ |
| 福井県 | | | | ○ | | | 熊本県 | | | | | | ○ |
| 長野県 | | | | ○ | | | 大分県 | | | | | | ○ |
| 岐阜県 | | | | ○ | | | 宮崎県 | | | | | | ○ |
| 静岡県 | | | | ○ | | | 鹿児島県 | | | | | | ○ |
| 愛知県 | | | | ○ | | | 沖縄県 | | | | | | ○ |
| 三重県 | | | | ○ | | | 合計 | 0 | 2 | 2 | 8 | 2 | 11 |

【医療施設からの受給状況】

| | 医療施設名 | 日本赤十字北海道看護大学 | 日本赤十字秋田看護大学 | 日本赤十字看護大学 | 日本赤十字豊田看護大学 | 日本赤十字広島看護大学 | 日本赤十字九州国際看護大学 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 日本赤十字社医療センター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 2 | 旭川赤十字病院 | ○ | | | | | |
| 3 | 伊達赤十字病院 | ○ | | | | | |
| 4 | 釧路赤十字病院 | ○ | | | | | |
| 5 | 北見赤十字病院 | ○ | | | | | |
| 6 | 栗山赤十字病院 | ○ | | | | | |
| 7 | 浦河赤十字病院 | ○ | | | | | |
| 8 | 小清水赤十字病院 | ○ | | | | | |
| 9 | 置戸赤十字病院 | ○ | | | | | |
| 10 | 函館赤十字病院 | ○ | ○ | | ○ | | |
| 11 | 清水赤十字病院 | ○ | | | | | |
| 12 | 八戸赤十字病院 | | ○ | | | | |
| 13 | 盛岡赤十字病院 | | | | | | |
| 14 | 仙台赤十字病院 | | ○ | | | | |
| 15 | 石巻赤十字病院 | | ○ | | | | |
| 16 | 秋田赤十字病院 | | ○ | | | | |
| 17 | 福島赤十字病院 | ○ | | ○ | | | |
| 18 | 水戸赤十字病院 | | | ○ | | | |
| 19 | 古河赤十字病院 | | | ○ | | | |
| 20 | 芳賀赤十字病院 | | | ○ | | | |
| 21 | 那須赤十字病院 | | | | | | |
| 22 | 足利赤十字病院 | | | | | | |
| 23 | 前橋赤十字病院 | | | | | | |
| 24 | 原町赤十字病院 | | | | | | |
| 25 | さいたま赤十字病院 | | | ○ | | | |
| 26 | 小川赤十字病院 | | | ○ | | | |
| 27 | 深谷赤十字病院 | | | ○ | | | |
| 28 | 成田赤十字病院 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 29 | 武蔵野赤十字病院 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 30 | 大森赤十字病院 | ○ | ○ | ○ | | | ○ |
| 31 | 東京かつしか赤十字母子医療センター | | | ○ | | | |
| 32 | みなと赤十字病院 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 33 | 秦野赤十字病院 | ○ | | ○ | | | |
| 34 | 相模原赤十字病院 | | | ○ | | | |
| 35 | 長岡赤十字病院 | | | ○ | | | |
| 36 | 山梨赤十字病院 | | | | | | |
| 37 | 富山赤十字病院 | | | ○ | | | |
| 38 | 金沢赤十字病院 | | | | | | |
| 39 | 福井赤十字病院 | | | | ○ | | |
| 40 | 長野赤十字病院 | | | ○ | | | |
| 41 | 諏訪赤十字病院 | | | | ○ | | |
| 42 | 安曇野赤十字病院 | | | | | | |
| 43 | 川西赤十字病院 | | | | | | |
| 44 | 下伊那赤十字病院 | | | | | | |
| 45 | 飯山赤十字病院 | | | | | | |

| | 医療施設名 | 日本赤十字北海道看護大学 | 日本赤十字秋田看護大学 | 日本赤十字看護大学 | 日本赤十字豊田看護大学 | 日本赤十字広島看護大学 | 日本赤十字九州国際看護大学 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 46 | 高山赤十字病院 | | | | | | |
| 47 | 岐阜赤十字病院 | | | | ○ | | |
| 48 | 静岡赤十字病院 | | | ○ | ○ | | |
| 49 | 浜松赤十字病院 | | | | ○ | ○ | |
| 50 | 伊豆赤十字病院 | ○ | | | | | |
| 51 | 引佐赤十字病院 | | | | | | |
| 52 | 裾野赤十字病院 | | | | | | |
| 53 | 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 | | | | ○ | | ○ |
| 54 | 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 | | | | ○ | | ○ |
| 55 | 伊勢赤十字病院 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 56 | 大津赤十字病院 | | | | | | |
| 57 | 大津赤十字志賀病院 | | | | | | |
| 58 | 長浜赤十字病院 | | | | | | |
| 59 | 京都第一赤十字病院 | | | | | ○ | ○ |
| 60 | 京都第二赤十字病院 | | | | | | |
| 61 | 舞鶴赤十字病院 | | | | | | |
| 62 | 大阪赤十字病院 | | ○ | | ○ | | |
| 63 | 高槻赤十字病院 | | | | | | |
| 64 | 姫路赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 65 | 多可赤十字病院 | | | | | | |
| 66 | 神戸赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 67 | 日本赤十字社和歌山医療センター | | ○ | | | ○ | |
| 68 | 鳥取赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 69 | 松江赤十字病院 | | | | | | |
| 70 | 益田赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 71 | 岡山赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 72 | 岡山玉野赤十字病院 | | | | | | |
| 73 | 広島原爆赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 74 | 庄原赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 75 | 三原赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 76 | 山口赤十字病院 | | | | | ○ | ○ |
| 77 | 小野田赤十字病院 | | | | | | |
| 78 | 徳島赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 79 | 高松赤十字病院 | | | | | ○ | ○ |
| 80 | 松山赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 81 | 高知赤十字病院 | | | | | ○ | |
| 82 | 福岡赤十字病院 | | | | | | ○ |
| 83 | 今津赤十字病院 | | | | | | |
| 84 | 嘉麻赤十字病院 | | | | | | ○ |
| 85 | 唐津赤十字病院 | | | | | | |
| 86 | 日本赤十字社長崎原爆赤十字病院 | | | | | | |
| 87 | 日本赤十字社長崎諫早赤十字病院 | | | | | | |
| 88 | 熊本赤十字病院 | | | | | | ○ |
| 89 | 大分赤十字病院 | | | | | | |
| 90 | 鹿児島赤十字病院 | | | | | | ○ |
| 91 | 沖縄赤十字病院 | | | | | | |
| | 合計 | 19 | 12 | 20 | 12 | 20 | 12 |

# 日本赤十字国際人道研究センターの動向

日本赤十字国際人道研究センター（英文名Japanese Red Cross Institute for Humanitarian Studies）は、当学園が設置する6大学、1短期大学の教育研究の専門人材を活かした人道問題に関する学術的な拠点として、調査・研究事業等を実施することを目的に、平成23年4月、日本赤十字看護大学内に日本赤十字社の協力を得て、開設されました。

**主な事業内容**

- 国際赤十字（日本赤十字社を含む。以下同じ。）の歴史・史料に関する調査研究
- 国際赤十字の活動及び事業に関する調査研究
- 国際人道法の普及及び調査研究に必要な事業
- 国際赤十字関係機関・団体等との学術研究の連携・協力
- 看護大学・短期大学が行う調査研究の支援

## 令和3年度の研究活動

### 1 「人道研究ジャーナル」Vol.11の刊行

本誌は、当センターの機関誌として位置づけているものです。今年度は、赤十字の歴史や人道問題を取り巻く諸課題について特集を組んで刊行しました。

主な特集記事は、①人道の先達、②青少年赤十字100周年、③気候危機と赤十字の気候・環境憲章のほか、「コロナ禍と闘う赤十字人の思い」として日本赤十字社各支部・施設から募集したエッセイ等を掲載しました。

1,600部を作成し、日本赤十字社各支部・施設をはじめ、関連省庁、主要人道関連団体、主要大学の研究者・図書館及び教育機関等へ配布しました。

「人道研究ジャーナル」Vol.11

### 2 教育・啓発用資材の制作

#### 1 「R+Travel赤十字ゆかりの地ガイドブック」の刊行

日本赤十字社各支部・施設から、創立者佐野常民をはじめとした関係者、日赤創立や歴史的事業に関わる、ゆかりの地の情報と関連する史料などを収集・編集し刊行しました。

10,000部を作成し、日本赤十字社各支部・施設等へ配布しました。

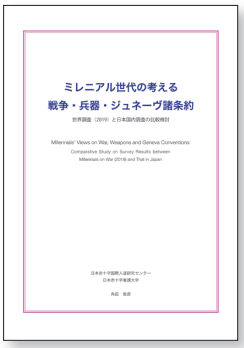
#### 2 「サイコロジカル・ファーストエイド（PFA）ガイド要約版」の刊行

昨年度刊行した「コミュニティに根ざした心理社会的支援　受講者用読本（CB-PSS）」を補完するために、WHO版の標準に基づいた最新版（2019年）である本冊子を翻訳、刊行しました。

「サイコロジカル・ファーストエイド（PFA）ガイド要約版」

### 3 「ミレニアル世代の考える戦争・兵器・ジュネーヴ諸条約」の刊行

赤十字国際委員会は、世界16か国で2000年以降に成人を迎えた20歳代から30歳代後半の約16,000人を対象に、戦争に関する意識調査を実施しました。これらのミレニアル世代は将来、社会の重要な意思決定を担う世代であることから、国別、男女別など様々な観点からの戦争に対する意識を比較し、『ミレニアル世代にとっての戦争』を刊行しました。当センターは、昨年度同冊子を翻訳、刊行しましたが、本年度は日本において同様の調査を行い、「ミレニアル世代の考える戦争・兵器・ジュネーヴ諸条約」2,000部を刊行。日本赤十字各看護大学・看護教育施設、日本赤十字社各支部・施設、関連団体、主要メディア等へ配布しました。



「ミレニアル世代の考える
戦争・兵器・ジュネーヴ諸条約」

## 3 日本赤十字社の歴史史料調査・収集

### 日本赤十字看護大学における歴史史料の展示等

日本赤十字看護大学の看護の歴史に関する史料の収集と保存、閲覧サービス、学内やホームページでの展示を継続して行いました。

また、看護にかかる歴史的史料については、寄贈を受けたものを中心に記録写真集（第14巻）を作成し、全国の赤十字看護大学等へ配布しました。

日看大展示

## 4 コロナ禍の影響

本年度は、全国的なコロナ禍の影響のため、当センター研究員の派遣事業や、一般を対象としたシンポジウム等の開催は中止となりました。

# 学校会計の決算状況を報告します

## 1 資金収支決算

資金収支計算書は、当該会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収入・支出の内容並びに支払資金の動きを明らかにするものです。

### 1 資金収入の部

**資金収入合計 13,007,463千円（前年度比 38,503千円 増）**

資金収入合計で、**増額**となりました。

（単位：千円）

| 科目 | 令和3年度 予算額 | 令和3年度 決算額 | 令和3年度 差異 | 令和2年度 決算額 | 対前年度比較 増減額 | 対前年度比較 増減率(%) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学生生徒等納付金収入 | 5,611,950 | 5,508,670 | 103,280 | 5,377,575 | ❶ **131,095** | 2.4 |
| 手数料収入 | 135,411 | 120,777 | 14,634 | 118,327 | 2,450 | 2.1 |
| 寄付金収入 | 60,456 | 185,734 | △ 125,278 | 147,096 | ❷ **38,638** | 26.3 |
| 補助金収入 | 1,031,434 | 1,096,770 | △ 65,336 | 1,037,602 | ❸ **59,168** | 5.7 |
| 資産売却収入 | 0 | 895 | △ 895 | 5 | 890 | 17800.0 |
| 付随事業・収益事業収入 | 62,842 | 74,485 | △ 11,643 | 40,623 | ❹ **33,862** | 83.4 |
| 受取利息・配当金収入 | 109,739 | 110,260 | △ 521 | 109,384 | 876 | 0.8 |
| 雑収入 | 42,083 | 36,769 | 5,314 | 42,438 | △ 5,669 | △ 13.4 |
| 借入金等収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 前受金収入 | 505,160 | 471,534 | 33,626 | 480,818 | △ 9,284 | △ 1.9 |
| その他の収入 | 1,553,630 | 1,672,076 | △ 118,446 | 1,878,710 | △ 206,634 | △ 11.0 |
| 資金収入調整勘定 | △ 519,610 | △ 603,077 | 83,467 | △ 583,450 | △ 19,627 | 3.4 |
| 前年度繰越支払資金 | 4,332,562 | 4,332,565 | △ 3 | 4,319,827 | ❺ **12,738** | 0.3 |
| **合　計** | 12,925,657 | **13,007,463** | △ 81,806 | 12,968,960 | **38,503** | 0.3 |

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

**❶学生生徒等納付金収入** 前年度比**131,095千円** 増

➡日本赤十字看護大学さいたま看護学部の開設2年目による在学生数の増加等により、前年度比**131,095千円**の**増額**となりました。

**❷寄付金収入** 前年度比**38,638千円** 増

➡日本赤十字看護大学さいたま看護学部の設置に伴う日本赤十字社からの助成金の増加等により、前年度比**38,638千円**の**増額**となりました。

**❸補助金収入** 前年度比**59,168千円** 増

➡前年度計上した豊田看護大学の発電設備更新に対する国庫補助金が減少した一方、高等教育の修学支援新制度による授業料等減免費交付金及び経常費補助金の増加等により、前年度比**59,168千円**の**増額**となりました。

**❹付随事業・収益事業収入** 前年度比**33,862千円** 増

➡北海道看護大学及び豊田看護大学の新型コロナウイルスワクチン接種への業務協力等により、前年度比**33,862千円**の**増額**となりました。

**❺前年度繰越支払資金** 前年度比**12,738千円** 増

➡前年度繰越支払資金（現預金）は、前年度比**12,738千円**の**増額**となりました。

## 2 資金支出の部

**資金支出合計 13,007,463千円（前年度比 38,503千円 増）**

資金支出合計で、**増額**となりました。

（単位：千円）

| 科目 | 令和3年度 予算額 | 令和3年度 決算額 | 令和3年度 差異 | 令和2年度 決算額 | 対前年度比較 増減額 | 対前年度比較 増減率(%) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 人件費支出 | 4,503,913 | 4,381,501 | 122,412 | 4,259,933 | ❶ **121,568** | 2.9 |
| 教育研究経費支出 | 1,703,735 | 1,593,166 | 110,569 | 1,499,489 | ❷ **93,677** | 6.2 |
| 管理経費支出 | 409,003 | 381,439 | 27,564 | 335,367 | ❸ **46,072** | 13.7 |
| 借入金等利息支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 借入金等返済支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 施設関係支出 | 618,298 | 551,254 | 67,044 | 312,213 | ❹ **239,041** | 76.6 |
| 設備関係支出 | 304,406 | 209,706 | 94,700 | 274,849 | ❺ △ **65,143** | △ 23.7 |
| 資産運用支出 | 533,979 | 620,584 | △ 86,605 | 376,409 | ❻ **244,175** | 64.9 |
| その他の支出 | 1,705,970 | 1,770,054 | △ 64,084 | 2,003,851 | △ 233,797 | △ 11.7 |
| 予備費 | 3,400 | 0 | 3,400 | 0 | 0 | — |
| 資金支出調整勘定 | △ 561,428 | △ 378,584 | △ 182,844 | △ 425,719 | 47,135 | △ 11.1 |
| 翌年度繰越支払資金 | 3,704,381 | 3,878,340 | △ 173,959 | 4,332,565 | ❼ △ **454,225** | △ 10.5 |
| **合　計** | 12,925,657 | **13,007,463** | △ 81,806 | 12,968,960 | **38,503** | 0.3 |

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

### ❶人件費支出　前年度比121,568千円 増

➡日本赤十字看護大学におけるさいたま看護学部の開設に伴う2学部管理運営体制整備のための教職員の増加及び広島看護大学の教職員の増加等により、前年度比**121,568千円**の**増額**となりました。

### ❷教育研究経費支出　前年度比93,677千円 増

➡国による高等教育の修学支援新制度に伴う奨学費支出の増加の他、前年度新型コロナウイルス感染症の影響により減少した対面授業や臨地実習の増に伴う、光熱水費支出及び委託実習費支出等経費の増加により、前年度比**93,677千円**の**増額**となりました。

### ❸管理経費支出　前年度比46,072千円 増

➡北海道看護大学の新型コロナウイルスワクチン接種への業務協力に伴う感染症対策による消耗品費支出の増加及び豊田看護大学のスクールバスの運行方法の変更による業務委託費支出等経費の増加により、前年度比**46,072千円**の**増額**となりました。

### ❹施設関係支出　前年度比239,041千円 増

➡日本赤十字看護大学さいたま看護学部の別館建設費等により、前年度比**239,041千円**の**増額**となりました。

### ❺設備関係支出　前年度比65,143千円 減

➡前年度計上した日本赤十字看護大学さいたま看護学部の設置に伴う教育研究用機器備品支出の減少等により、前年度比**65,143千円**の**減額**となりました。

### ❻資産運用支出　前年度比244,175千円 増

➡各大学が計上した施設設備整備引当特定資産への繰入支出の増加等により、前年度比**244,175千円**の**増額**となりました。

### ❼翌年度繰越支払資金　前年度比454,225千円 減

➡翌年度繰越支払資金（現預金）は、前年度比**454,225千円**の**減額**となりました。

# 2 事業活動収支決算

事業活動収支計算書は、学生生徒等納付金等本業の教育活動に対する「教育活動収支」、受取利息等財務活動に対する「教育活動外収支」及び資産売却等臨時的な活動に対する「特別収支」の3つに区分して表示しています。

また、本計算書は、当該会計年度の事業活動収入及び事業活動支出の内容並びに基本金組入額及び基本金取崩額等を含め、事業収支の均衡状態を示すものであります。

（単位：千円）

| 区分 | | 科目 | 令和3年度 予算額 | 令和3年度 決算額 | 令和3年度 差異 | 令和2年度 決算額 | 対前年度比較 増減額 | 対前年度比較 増減率(%) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動収支 | 事業活動収入の部 | 学生生徒等納付金 | 5,611,950 | 5,508,670 | 103,280 | 5,377,575 | ❶ 131,095 | 2.4 |
| | | 手数料 | 135,411 | 120,777 | 14,634 | 118,327 | 2,450 | 2.1 |
| | | 寄付金 | 60,025 | 62,759 | △ 2,734 | 82,304 | △ 19,545 | △ 23.7 |
| | | 経常費等補助金 | 1,031,434 | 1,081,798 | △ 50,364 | 972,345 | ❷ 109,453 | 11.3 |
| | | 付随事業収入 | 62,842 | 74,485 | △ 11,643 | 40,623 | ❸ 33,862 | 83.4 |
| | | 雑収入 | 42,083 | 37,103 | 4,980 | 40,043 | △ 2,940 | △ 7.3 |
| | | 計 | 6,943,745 | 6,885,594 | 58,151 | 6,631,221 | 254,373 | 3.8 |
| | 事業活動支出の部 | 人件費 | 4,691,828 | 4,537,391 | 154,437 | 4,415,988 | ❺ 121,403 | 2.7 |
| | | 教育研究経費 | 2,555,803 | 2,435,006 | 120,797 | 2,300,643 | ❻ 134,363 | 5.8 |
| | | 管理経費 | 451,133 | 417,832 | 33,301 | 367,448 | ❼ 50,384 | 13.7 |
| | | 徴収不能額等 | 0 | 106 | △ 106 | 420 | △ 314 | — |
| | | 計 | 7,698,764 | 7,390,337 | 308,427 | 7,084,501 | 305,836 | 4.3 |
| | 教育活動収支差額 | | △ 755,019 | △ 504,742 | △ 250,277 | △ 453,279 | △ 51,463 | 11.4 |
| 教育活動外収支 | 事業活動収入の部 | 受取利息・配当金 | 109,743 | 110,260 | △ 517 | 109,384 | 876 | 0.8 |
| | | その他の教育活動外収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| | | 計 | 109,743 | 110,260 | △ 517 | 109,384 | 876 | 0.8 |
| | 事業活動支出の部 | 借入金等利息 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| | | その他の教育活動外支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| | | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| | 教育活動外収支差額 | | 109,743 | 110,260 | △ 517 | 109,384 | 876 | 0.8 |
| 経常収支差額 | | | △ 645,276 | △ 394,482 | △ 250,794 | △ 343,895 | △ 50,587 | 14.7 |
| 特別収支 | 事業活動収入の部 | 資産売却差額 | 0 | 895 | △ 895 | 2,044 | △ 1,149 | △ 56.2 |
| | | その他の特別収入 | 1,707 | 147,379 | △ 145,672 | 146,931 | ❹ 448 | 0.3 |
| | | 計 | 1,707 | 148,274 | △ 146,567 | 148,975 | △ 701 | △ 0.5 |
| | 事業活動支出の部 | 資産処分差額 | 15,396 | 15,380 | 16 | 21,962 | △ 6,582 | △ 30.0 |
| | | その他の特別支出 | 0 | 850 | △ 850 | 3,818 | △ 2,968 | △ 77.7 |
| | | 計 | 15,396 | 16,231 | △ 835 | 25,780 | △ 9,549 | △ 37.0 |
| | 特別収支差額 | | △ 13,689 | 132,043 | △ 145,732 | 123,194 | 8,849 | 7.2 |
| 予備費 | | | 3,400 | 0 | 3,400 | 0 | 0 | — |
| 基本金組入前当年度収支差額 | | | △ 662,365 | △ 262,438 | △ 399,927 | △ 220,700 | △ 41,738 | 18.9 |
| 基本金組入額合計 | | | △ 822,815 | △ 616,688 | △ 206,127 | △ 2,854,408 | 2,237,720 | △ 78.4 |
| 当年度収支差額 | | | △ 1,485,180 | △ 879,127 | △ 606,053 | △ 3,075,109 | 2,195,982 | △ 71.4 |
| 前年度繰越収支差額 | | | 36,284 | 36,285 | △ 1 | 405,667 | △ 369,382 | △ 91.1 |
| 基本金取崩額 | | | 45,572 | 65,633 | △ 20,061 | 2,705,727 | △ 2,640,094 | △ 97.6 |
| 翌年度繰越収支差額 | | | △ 1,403,324 | △ 777,207 | △ 626,117 | 36,285 | △ 813,492 | △ 2242.0 |
| 参考 | 事業活動収入計 | | 7,055,195 | 7,144,129 | △ 88,934 | 6,889,581 | 254,548 | 3.7 |
| | 事業活動支出計 | | 7,717,560 | 7,406,568 | 310,992 | 7,110,282 | 296,286 | 4.2 |

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

## 1 事業活動収入の部

### ❶学生生徒等納付金 前年度比131,095千円 増

➡日本赤十字看護大学さいたま看護学部の開設2年目による在学生数の増加等により、
前年度比**131,095千円**の**増額**となりました。

### ❷経常費等補助金 前年度比109,453千円 増

➡高等教育の修学支援新制度による授業料等減免費交付金及び経常費補助金の増加等により、
前年度比**109,453千円**の**増額**となりました。

### ❸付随事業収入 前年度比33,862千円 増

➡北海道看護大学及び豊田看護大学の新型コロナウイルスワクチン接種への業務協力等により、
前年度比**33,862千円**の**増額**となりました。

### ❹その他の特別収入 前年度比448千円 増

➡前年度計上した豊田看護大学の発電設備更新に対する国庫補助金が減少した一方、日本赤十字看護大学さいたま看護学部の設置に伴う日本赤十字社からの助成金の増加等により、前年度比**448千円**の**増額**となりました。

## 2 事業活動支出の部

### ❺人件費 前年度比121,403千円 増

➡日本赤十字看護大学におけるさいたま看護学部の開設に伴う2学部管理運営体制整備のための教職員の増加及び
広島看護大学の教職員の増加等により、前年度比**121,403千円**の**増額**となりました。

### ❻教育研究経費 前年度比134,363千円 増

➡国による高等教育の修学支援新制度に伴う奨学費の増加の他、前年度新型コロナウイルス感染症の影響により減少した
対面授業や臨地実習の増に伴う、光熱水費及び委託実習費等経費の増加並びに減価償却額の増加により、
前年度比**134,363千円**の**増額**となりました。

### ❼管理経費 前年度比50,384千円 増

➡北海道看護大学の新型コロナウイルスワクチン接種への業務協力に伴う感染症対策による消耗品費の増加及び豊田看護大学のスクールバスの運行方法の変更による業務委託費等経費の増加により、前年度比**50,384千円**の**増額**となりました。

## 3 基本金組入額等

基本金組入額とは、学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するため、維持すべきものとして事業活動収入から組み入れた金額です。

令和3年度は、基本金全体としては、616,688千円を組み入れ、65,633千円を取り崩しました。

**（参考）基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで4種類あります。**

- 第1号基本金は、施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、令和3年度は本部及び6大学で合わせて576,688千円を組み入れ、秋田短期大学で39,633千円を取り崩しました。
- 第3号基本金は、教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金及び奨学基金等の設定であり、令和3年度の組み入れはありません。
- 第4号基本金は、恒常的な資金の維持のための設定であり、令和3年度は日本赤十字看護大学で40,000千円を組み入れ、法人本部において26,000千円を取り崩しました。

# 3 貸借対照表

資産の部、負債の部及び純資産の科目ごとに、当該会計年度末の額を前年度会計年度末の額と比較して、当該会計年度末の財産の状況を表すものです。

## 1 資産の部

（単位：千円）

| 科目＼年度 | | 令和3年度 | 令和2年度 | 増減 |
|---|---|---|---|---|
| 資産の部 | 固定資産 | 45,105,553 | 44,799,547 | 306,006 |
| | 有形固定資産 | 23,361,731 | 23,459,533 | ❶ △ 97,802 |
| | 特定資産 | 21,548,793 | 21,117,332 | ❷ 431,461 |
| | その他の固定資産 | 195,028 | 222,681 | ❸ △ 27,653 |
| | 流動資産 | 4,013,629 | 4,466,062 | ❹ △ 452,433 |
| | **資産の部合計** | **49,119,183** | **49,265,610** | △ 146,427 |

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計が一致しないことがある。

### 【資産の部】

**❶有形固定資産** 前年度比97,802千円 減

➡日本赤十字看護大学さいたま看護学部の別館建設及び広島看護大学の校舎空調設備の更新の他、各大学の固定資産の整備があった一方、設備等の更新に伴う除却及び減価償却額の計上により**減少**しました。

**❷特定資産** 前年度比431,461千円 増

➡施設設備の更新等に使用する施設設備整備引当特定資産及び退職給与引当特定資産等が**増加**しました。

**❸その他の固定資産** 前年度比27,653千円 減

➡ソフトウェアの減価償却額の計上等により**減少**しました。

**❹流動資産** 前年度比452,433千円 減

➡日本赤十字看護大学さいたま看護学部の別館建設及び施設設備整備引当特定資産等への繰入れの影響もあり、現金・預金等が**減少**しました。

## 2 負債・純資産の部

（単位：千円）

| 科目＼年度 | | 令和3年度 | 令和2年度 | 増減 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 負債の部 | 固定負債 | 2,066,019 | 1,915,265 | ❶ | **150,754** |
| | 流動負債 | 1,133,620 | 1,168,362 | ❷ | △ **34,742** |
| | 負債の部合計 | 3,199,639 | 3,083,628 | | 116,011 |
| 純資産の部 | 基本金 | 46,696,750 | 46,145,696 | ❸ | **551,054** |
| | 繰越収支差額 | △ 777,207 | 36,285 | ❹ | △ **813,492** |
| | 純資産の部合計 | 45,919,543 | 46,181,981 | | △ 262,438 |
| **負債及び純資産の部合計** | | **49,119,183** | **49,265,610** | | △ **146,427** |

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計が一致しないことがある。

### 【負債の部】

**❶固定負債** 前年度比**150,754千円** 増

➡退職給与引当金の影響により**増加**しました。

**❷流動負債** 前年度比**34,742千円** 減

➡年度末に計上した未払金により**減少**しました。

### 【純資産の部】

**❸基本金** 前年度比**551,054千円** 増

➡日本赤十字看護大学さいたま看護学部の別館建設及び広島看護大学の校舎空調設備の更新等により固定資産取得による組み入れを行ったため、第１号基本金は**増加**しました。

➡また、恒常的な資金の維持として計上した資金の組み入れを行ったため、第４号基本金は若干**増加**しました。

**❹繰越収支差額** 前年度比**813,492千円** 減

➡基本金組入額等5.5億円の増及び有形固定資産の減価償却による減等により、繰越収支差額は**減少**しました。

# 4 財産目録

財産目録は、令和4年3月31日現在の基本財産、運用財産、負債額を示したものです。

**❶資産総額　49,119,183,093円**

➡内　基本財産　**23,384,103,942円**
　　運用財産　**25,735,079,151円**

**❷負債総額　3,199,639,908円**

**正味財産　45,919,543,185円**

（単位：円）

| 科目 | 数量 | 金額 |
|---|---|---|
| ❶資産 | | **49,119,183,093** |
| 1 基本財産 | | 23,384,103,942 |
| （1）土地（校舎敷地、運動場等） | 205,651.48㎡ | 7,270,018,309 |
| （2）建物（校舎、図書館、体育館等） | 106,749.18㎡ | 13,412,789,022 |
| （3）図書（和書、洋書、視聴覚資料 12,300 点） | 377,582冊 | 1,633,125,870 |
| （4）教具等（教具、校具、管理用備品） | 18,377点 | 884,027,287 |
| （5）構築物（道路舗装工事他） | | 144,464,240 |
| （6）その他（車両、電話加入権等） | | 39,679,214 |
| 2 運用財産 | | 25,735,079,151 |
| （1）預金・現金 | | 3,878,340,165 |
| （2）積立金（施設設備整備引当特定資産等） | | 21,548,793,513 |
| （3）有価証券（国債等） | | 167,593,192 |
| （4）不動産（土地） | | 163,584 |
| （5）長期貸付金（奨学金） | | 4,761,500 |
| （6）差入保証金（敷金等） | | 137,490 |
| （7）未収入金（地方公共団体補助金等） | | 121,312,230 |
| （8）前払金・立替金・短期貸付金 | | 13,977,477 |
| ❷負債 | | **3,199,639,908** |
| 1 固定負債（長期未払金、退職給与引当金） | | 2,066,019,833 |
| 2 流動負債（前受金、未払金、預り金） | | 1,133,620,075 |
| 借用財産 | | |
| 1 土地（校舎敷地等） | 66,534.16㎡ | |
| 2 建物（寄宿舎等） | 3,619.34㎡ | |

# 5 参考

## 1 過去5ヵ年の資金収支計算書（学校法人全体）

（単位：千円）

| 科目 | | 平成29年度 | | 平成30年度 | | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 対前年比（%） |
| 資金収入の部 | 学生生徒等納付金収入 | 5,343,091 | 35.7 | 5,330,656 | 36.1 | 5,281,160 | 41.6 | 5,377,575 | 41.5 | 5,508,670 | 42.4 | 102.4 |
| | 手数料収入 | 112,046 | 0.7 | 114,578 | 0.8 | 119,144 | 0.9 | 118,327 | 0.9 | 120,777 | 0.9 | 102.1 |
| | 寄付金収入 | 213,666 | 1.4 | 64,613 | 0.4 | 55,012 | 0.4 | 147,096 | 1.1 | 185,734 | 1.4 | 126.3 |
| | 補助金収入 | 1,082,030 | 7.2 | 875,049 | 5.9 | 821,667 | 6.5 | 1,037,602 | 8.0 | 1,096,770 | 8.4 | 105.7 |
| | 資産売却収入 | 428 | 0.0 | 10,010 | 0.1 | 39 | 0.0 | 5 | 0.0 | 895 | 0.0 | 17,900.0 |
| | 付随事業・収益事業収入 | 74,247 | 0.5 | 48,922 | 0.3 | 40,516 | 0.3 | 40,623 | 0.3 | 74,485 | 0.6 | 183.4 |
| | 受取利息・配当金収入 | 111,571 | 0.7 | 111,123 | 0.8 | 110,614 | 0.9 | 109,384 | 0.8 | 110,260 | 0.8 | 100.8 |
| | 前受金収入 | 518,985 | 3.5 | 482,110 | 3.3 | 482,538 | 3.8 | 480,818 | 3.7 | 471,534 | 3.6 | 98.1 |
| | その他の収入等 | 2,060,654 | 13.8 | 2,609,082 | 17.7 | 1,900,354 | 15.0 | 1,921,148 | 14.8 | 1,708,845 | 13.1 | 88.9 |
| | 資金収入調整勘定 | △ 672,974 | △ 4.5 | △ 553,808 | △ 3.7 | △ 596,430 | △ 4.7 | △ 583,450 | △ 4.5 | △ 603,077 | △ 4.6 | 103.4 |
| | 前年度繰越支払資金 | 6,137,758 | 41.0 | 5,678,350 | 38.4 | 4,483,605 | 35.3 | 4,319,827 | 33.3 | 4,332,565 | 33.3 | 100.3 |
| | 資金収入合計 | 14,981,505 | 100.0 | 14,770,686 | 100.0 | 12,698,223 | 100.0 | 12,968,960 | 100.0 | 13,007,463 | 100.0 | 100.3 |
| 資金支出の部 | 人件費支出 | 3,899,531 | 26.0 | 4,041,547 | 27.4 | 4,233,933 | 33.3 | 4,259,933 | 32.8 | 4,381,501 | 33.7 | 102.9 |
| | 教育研究経費支出 | 1,337,204 | 8.9 | 1,325,577 | 9.0 | 1,298,162 | 10.2 | 1,499,489 | 11.6 | 1,593,166 | 12.2 | 106.2 |
| | 管理経費支出 | 420,875 | 2.8 | 372,067 | 2.5 | 538,513 | 4.2 | 335,367 | 2.6 | 381,439 | 2.9 | 113.7 |
| | 借入金等利息・返済支出 | 0 | — | 0 | — | 0 | — | 0 | — | 0 | — | — |
| | 施設関係支出 | 70,256 | 0.5 | 1,736,811 | 11.8 | 178,663 | 1.4 | 312,213 | 2.4 | 551,254 | 4.2 | 176.6 |
| | 設備関係支出 | 542,494 | 3.6 | 192,950 | 1.3 | 375,772 | 3.0 | 274,849 | 2.1 | 209,706 | 1.6 | 76.3 |
| | 資産運用支出 | 1,666,819 | 11.1 | 1,374,080 | 9.3 | 448,501 | 3.5 | 376,409 | 2.9 | 620,584 | 4.8 | 164.9 |
| | その他支出 | 1,829,308 | 12.2 | 1,725,125 | 11.7 | 1,899,309 | 15.0 | 2,003,851 | 15.5 | 1,770,054 | 13.6 | 88.3 |
| | 資金支出調整勘定 | △ 463,336 | △ 3.1 | △ 481,076 | △ 3.3 | △ 594,461 | △ 4.7 | △ 425,719 | △ 3.3 | △ 378,584 | △ 2.9 | 88.9 |
| | 翌年度繰越支払資金 | 5,678,350 | 37.9 | 4,483,605 | 30.4 | 4,319,827 | 34.0 | 4,332,565 | 33.4 | 3,878,340 | 29.8 | 89.5 |
| | 資金支出合計 | 14,981,505 | 100.0 | 14,770,686 | 100.0 | 12,698,223 | 100.0 | 12,968,960 | 100.0 | 13,007,463 | 100.0 | 100.3 |

＊資金収支においては、その年度の現金の動きを表示していることから、収入合計と支出合計額が一致している。
＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。
＊学校法人全体の資金収支計算書においては、各部門間の内部取引収入および支出は相殺されている。
＊各科目の構成比率は、それぞれの合計に占める割合となっている。

## 2 過去5ヵ年の事業活動収支計算書（学校法人全体）

（単位：千円）

| 科目 | | | 平成29年度 | | 平成30年度 | | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 金額 | 構成比率（%） | 対前年比（%） |
| 教育活動収支 | 事業活動収入の部 | 学生生徒等納付金 | 5,343,091 | 76.0 | 5,330,656 | 80.7 | 5,281,160 | 81.4 | 5,377,575 | 78.1 | 5,508,670 | 77.1 | 102.4 |
| | | 手数料 | 112,046 | 1.6 | 114,578 | 1.7 | 119,144 | 1.8 | 118,327 | 1.7 | 120,777 | 1.7 | 102.1 |
| | | 寄付金 | 63,335 | 0.9 | 55,134 | 0.8 | 51,990 | 0.8 | 82,304 | 1.2 | 62,759 | 0.9 | 76.3 |
| | | 経常費等補助金 | 1,082,030 | 15.4 | 875,049 | 13.2 | 821,667 | 12.7 | 972,345 | 14.1 | 1,081,798 | 15.1 | 111.3 |
| | | 付随事業収入 | 74,247 | 1.1 | 48,922 | 0.7 | 40,516 | 0.6 | 40,623 | 0.6 | 74,485 | 1.0 | 183.4 |
| | | 雑収入 | 52,394 | 0.7 | 57,802 | 0.9 | 52,863 | 0.8 | 40,043 | 0.6 | 37,103 | 0.5 | 92.7 |
| | | 計 | 6,727,145 | 95.7 | 6,482,141 | 98.1 | 6,367,342 | 98.2 | 6,631,221 | 96.2 | 6,885,594 | 96.4 | 103.8 |
| | 事業活動支出の部 | 人件費 | 4,046,653 | 61.7 | 4,087,366 | 61.9 | 4,229,491 | 61.5 | 4,415,988 | 62.1 | 4,537,391 | 61.3 | 102.7 |
| | | 教育研究経費 | 2,045,489 | 31.2 | 2,075,996 | 31.4 | 1,991,312 | 29.0 | 2,300,643 | 32.4 | 2,435,006 | 32.9 | 105.8 |
| | | 管理経費 | 450,137 | 6.9 | 421,158 | 6.4 | 632,087 | 9.2 | 367,448 | 5.2 | 417,832 | 5.6 | 113.7 |
| | | 徴収不能額等 | 200 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 420 | 0.0 | 106 | 0.0 | 25.2 |
| | | 計 | 6,542,480 | 99.8 | 6,584,520 | 99.7 | 6,852,891 | 99.7 | 7,084,501 | 99.6 | 7,390,337 | 99.8 | 104.3 |
| | 教育活動収支差額 | | 184,665 | － | △ 102,379 | － | △ 485,548 | － | △ 453,279 | － | △ 504,742 | － | 111.4 |
| 教育活動外収支 | 事業活動収入の部 | 受取利息・配当金 | 111,571 | 1.6 | 111,123 | 1.7 | 110,614 | 1.7 | 109,384 | 1.6 | 110,260 | 1.5 | 100.8 |
| | | その他の教育活動外収入 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | － |
| | | 計 | 111,571 | 1.6 | 111,123 | 1.7 | 110,614 | 1.7 | 109,384 | 1.6 | 110,260 | 1.5 | 100.8 |
| | 事業活動支出の部 | 借入金等利息 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | － |
| | | その他の教育活動外支出 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | － |
| | | 計 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | － |
| | 教育活動外収支差額 | | 111,571 | － | 111,123 | － | 110,614 | － | 109,384 | － | 110,260 | － | 100.8 |
| 経常収支差額 | | | 296,237 | － | 8,744 | － | △ 374,934 | － | △ 343,895 | － | △ 394,482 | － | 114.7 |
| 特別収支 | 事業活動収入の部 | 資産売却差額 | 428 | 0.0 | 10 | 0.0 | 39 | 0.0 | 2,044 | 0.0 | 895 | 0.0 | 43.8 |
| | | その他の特別収入 | 190,129 | 2.7 | 14,536 | 0.2 | 6,233 | 0.1 | 146,931 | 2.1 | 147,379 | 2.1 | 100.3 |
| | | 計 | 190,557 | 2.7 | 14,546 | 0.2 | 6,273 | 0.1 | 148,975 | 2.2 | 148,274 | 2.1 | 99.5 |
| | 事業活動支出の部 | 資産処分差額 | 7,659 | 0.1 | 16,806 | 0.3 | 19,974 | 0.3 | 21,962 | 0.3 | 15,380 | 0.2 | 70.0 |
| | | その他の特別支出 | 3,495 | 0.1 | 1,216 | 0.0 | 376 | 0.0 | 3,818 | 0.1 | 850 | 0.0 | 22.3 |
| | | 計 | 11,154 | 0.2 | 18,022 | 0.3 | 20,351 | 0.3 | 25,780 | 0.4 | 16,231 | 0.2 | 63.0 |
| | 特別収支差額 | | 179,402 | － | △ 3,476 | － | △ 14,077 | － | 123,194 | － | 132,043 | － | 107.2 |
| 基本金組入前当年度収支差額 | | | 475,639 | － | 5,268 | － | △ 389,012 | － | △ 220,700 | － | △ 262,438 | － | 118.9 |
| 基本金組入額合計 | | | △ 541,630 | － | △ 745,614 | － | △ 312,419 | － | △ 2,854,408 | － | △ 616,688 | － | 21.6 |
| 当年度収支差額 | | | △ 65,990 | － | △ 740,346 | － | △ 701,431 | － | △ 3,075,109 | － | △ 879,127 | － | 28.6 |
| 前年度繰越収支差額 | | | 1,745,653 | － | 1,702,548 | － | 1,045,249 | － | 405,667 | － | 36,285 | － | 8.9 |
| 基本金取崩額 | | | 22,885 | － | 83,047 | － | 61,848 | － | 2,705,727 | － | 65,633 | － | 2.4 |
| 翌年度繰越収支差額 | | | 1,702,548 | － | 1,045,249 | － | 405,667 | － | 36,285 | － | △ 777,207 | － | △ 2,142.0 |

（参考）

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業活動収入計 | 7,029,274 | 100.0 | 6,607,811 | 100.0 | 6,484,230 | 100.0 | 6,889,581 | 100.0 | 7,144,129 | 100.0 | 103.7 |
| 事業活動支出計 | 6,553,635 | 100.0 | 6,602,543 | 100.0 | 6,873,242 | 100.0 | 7,110,282 | 100.0 | 7,406,568 | 100.0 | 104.2 |

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。
＊学校法人全体の事業活動収支計算書においては、各部門間の内部取引収入および支出は相殺されている。
＊各科目の構成比率は、事業活動収入計及び支出計に対して、それぞれに占める割合となっている。

## 3 過去5ヵ年の貸借対照表（学校法人全体）

（単位：千円）

| 科目 | | 平成29年度 | | 平成30年度 | | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 対前年比(%) |
| 資産の部 | 固定資産 | 43,944,103 | 88.5 | 45,186,981 | 90.9 | 44,981,105 | 91.0 | 44,799,547 | 90.9 | 45,105,553 | 91.8 | 100.7 |
| | 有形固定資産 | 22,779,547 | 45.9 | 23,920,708 | 48.1 | 23,690,938 | 47.9 | 23,459,533 | 47.6 | 23,361,731 | 47.6 | 99.6 |
| | 特定資産 | 20,890,240 | 42.1 | 21,012,073 | 42.3 | 21,043,255 | 42.6 | 21,117,332 | 42.9 | 21,548,793 | 43.9 | 102.0 |
| | その他の固定資産 | 274,315 | 0.6 | 254,200 | 0.5 | 246,911 | 0.5 | 222,681 | 0.5 | 195,028 | 0.4 | 87.6 |
| | 流動資産 | 5,719,188 | 11.5 | 4,527,319 | 9.1 | 4,442,640 | 9.0 | 4,466,062 | 9.1 | 4,013,629 | 8.2 | 89.9 |
| | うち現金預金 | 5,678,350 | 11.4 | 4,483,605 | 9.0 | 4,319,827 | 8.7 | 4,332,565 | 8.8 | 3,878,340 | 7.9 | 89.5 |
| | **資産の部合計** | **49,663,292** | 100.0 | **49,714,300** | 100.0 | **49,423,745** | 100.0 | **49,265,610** | 100.0 | **49,119,183** | 100.0 | 99.7 |

（単位：千円）

| 科目 | | 平成29年度 | | 平成30年度 | | 令和元年度 | | 令和2年度 | | 令和3年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 金額 | 構成比率(%) | 対前年比(%) |
| 負債の部 | 固定負債 | 1,740,147 | 3.5 | 1,783,226 | 3.6 | 1,753,254 | 3.5 | 1,915,265 | 3.9 | 2,066,019 | 4.2 | 107.9 |
| | 流動負債 | 1,136,717 | 2.3 | 1,139,380 | 2.3 | 1,267,808 | 2.6 | 1,168,362 | 2.4 | 1,133,620 | 2.3 | 97.0 |
| | うち前受金 | 518,985 | 1.0 | 481,689 | 1.0 | 472,788 | 1.0 | 483,718 | 1.0 | 472,984 | 1.0 | 97.8 |
| | **負債の部合計** | **2,876,865** | 5.8 | **2,922,606** | 5.9 | **3,021,063** | 6.1 | **3,083,628** | 6.3 | **3,199,639** | 6.5 | 103.8 |
| 純資産の部 | 基本金 | 45,083,878 | 90.8 | 45,746,445 | 92.0 | 45,997,015 | 93.1 | 46,145,696 | 93.7 | 46,696,750 | 95.1 | 101.2 |
| | 第１号基本金 | 41,019,878 | 82.6 | 41,374,445 | 83.2 | 41,616,015 | 84.2 | 41,743,696 | 84.7 | 42,280,750 | 86.1 | 101.3 |
| | 第２号基本金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | － |
| | 第３号基本金 | 3,630,000 | 7.3 | 3,930,000 | 7.9 | 3,930,000 | 8.0 | 3,930,000 | 8.0 | 3,930,000 | 8.0 | 100.0 |
| | 第４号基本金 | 434,000 | 0.9 | 442,000 | 0.9 | 451,000 | 0.9 | 472,000 | 1.0 | 486,000 | 1.0 | 103.0 |
| | 繰越収支差額 | 1,702,548 | 3.4 | 1,045,249 | 2.1 | 405,667 | 0.8 | 36,285 | 0.1 | △ 777,207 | △ 1.6 | △ 2142.0 |
| | **純資産の部合計** | **46,786,427** | 94.2 | **46,791,694** | 94.1 | **46,402,682** | 93.9 | **46,181,981** | 93.7 | **45,919,543** | 93.5 | 99.4 |
| **負債の部、純資産の部合計** | | **49,663,292** | 100.0 | **49,714,300** | 100.0 | **49,423,745** | 100.0 | **49,265,610** | 100.0 | **49,119,183** | 100.0 | 99.7 |

＊千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

# 人道の理念に基づき、日本の看護・介護

## 学園の沿革

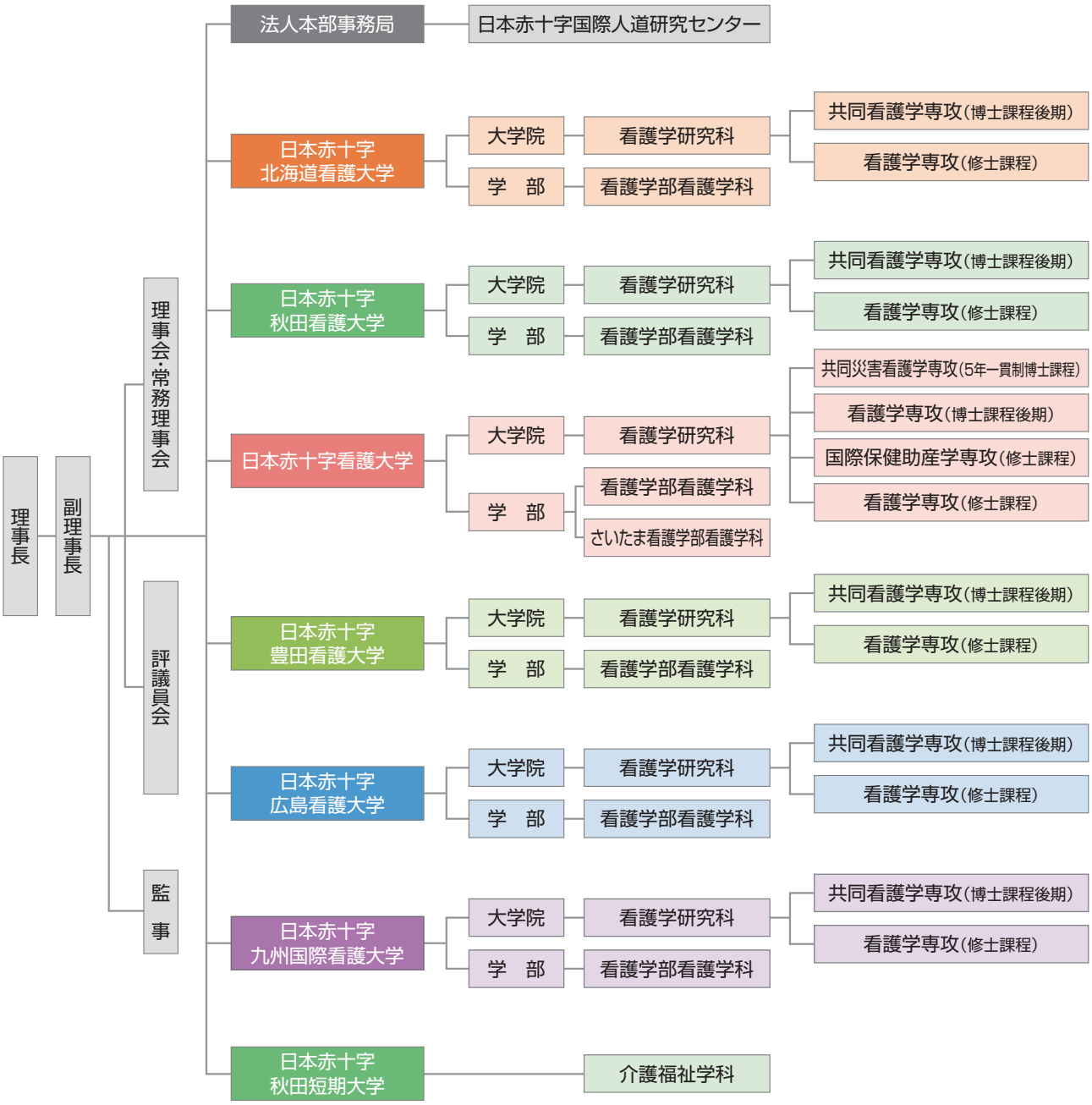
令和4年3月31日　現在

| | |
|---|---|
| 明治10年（1877年） | 博愛社を設立 |
| 明治20年（1887年） | 博愛社から日本赤十字社に改称 |
| 明治23年（1890年） | 日本赤十字社看護婦養成所を設立 |
| 昭和21年（1946年） | 日本赤十字女子専門学校に昇格 |
| | 財団法人日本赤十字女子専門学校を設立 |
| 昭和29年（1954年） | 財団法人日本赤十字女子専門学校を学校法人日本赤十字女子短期大学に改組 |
| | 日本赤十字女子短期大学を設立 |
| 昭和41年（1966年） | 学校法人日本赤十字女子短期大学を学校法人日本赤十字学園に改称 |
| | 日本赤十字女子短期大学を日本赤十字中央女子短期大学に改称 |
| | 日本赤十字武蔵野女子短期大学看護学科を開設 |
| 昭和50年（1975年） | 学校法人日本赤十字学園大阪高等看護学校を開設 |
| 昭和53年（1978年） | 学校法人日本赤十字学園大阪高等看護学校を学校法人日本赤十字学園大阪看護専門学校に改称 |
| 昭和61年（1986年） | 日本赤十字看護大学看護学部看護学科を開設 |
| 昭和63年（1988年） | 日本赤十字中央女子短期大学を閉校 |
| 平成元年　（1989年） | 日本赤十字愛知女子短期大学看護学科を開設 |
| | 学校法人日本赤十字学園大阪看護専門学校を閉校 |
| 平成5年　（1993年） | 日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設 |
| 平成7年　（1995年） | 日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士課程後期を開設 |
| 平成8年　（1996年） | 日本赤十字秋田短期大学看護学科・介護福祉学科を開設 |
| 平成9年　（1997年） | 日本赤十字武蔵野女子短期大学を日本赤十字武蔵野短期大学に改称 |
| | 日本赤十字愛知女子短期大学を日本赤十字愛知短期大学に改称 |
| 平成11年（1999年） | 日本赤十字北海道看護大学看護学部看護学科を開設 |
| 平成12年（2000年） | 日本赤十字広島看護大学看護学部看護学科を開設 |
| 平成13年（2001年） | 日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科を開設 |
| 平成15年（2003年） | 日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設 |
| 平成16年（2004年） | 日本赤十字豊田看護大学看護学部看護学科を開設 |
| | 日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設 |
| 平成17年（2005年） | 日本赤十字看護大学と日本赤十字武蔵野短期大学が統合 |
| 平成18年（2006年） | 日本赤十字愛知短期大学を閉校 |
| 平成19年（2007年） | 日本赤十字武蔵野短期大学を閉校 |
| | 日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設 |
| 平成21年（2009年） | 日本赤十字秋田看護大学看護学部看護学科を開設 |
| 平成22年（2010年） | 日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設 |
| 平成23年（2011年） | 日本赤十字秋田短期大学看護学科を閉科 |
| | 日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設 |
| 平成26年（2014年） | 日本赤十字看護大学大学院看護学研究科共同災害看護学専攻博士課程を開設<br>（国公私立5大学の共同教育課程） |
| 平成28年（2016年） | 日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 |
| | 日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 |
| | 日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 |
| | 日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 |
| | 日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設<br>（赤十字5大学の共同教育課程） |
| 令和2年　（2020年） | 日本赤十字看護大学さいたま看護学部看護学科を開設 |

# 福祉を支える多くの人材を育成しています。

## 学園の組織

令和4年3月31日　現在




## 教職員の概要

令和3年5月1日　現在

（単位：人）

| 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | 事務職 | 教職員合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 97 | 60 | 71 | 83 | 18 | 188 | 517 |

## 役員・評議員一覧

令和4年3月31日　現在

### ◆理事（13名）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 理事長 | 大塚 義治 | 平成17年4月就任 | 日本赤十字社 社長 |
| 副理事長 | 富田 博樹 | 平成31年4月就任 | 日本赤十字社 副社長 |
| 常務理事 | 宮原 保之 | 平成31年4月就任 | 日本赤十字社 医療事業推進本部 本部長 |
| | 庄野 泰乃 | 令和3年4月就任 | 日本赤十字社 医療事業推進本部 副本部長兼看護部長 |
| | 鈴木 一寿 | 令和2年4月就任 | 学校法人日本赤十字学園 法人本部 事務局長 |
| | 鎌倉 やよい | 令和3年4月就任 | 日本赤十字豊田看護大学 学長 |
| 理事 | 原 玲子 | 令和3年4月就任 | 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学 学長 |
| | 田村 由美 | 令和2年4月就任 | 日本赤十字広島看護大学 学長 |
| | 高橋 高美 | 平成27年4月就任 | 一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 常務理事 |
| | 中川原 米俊 | 平成26年11月就任 | 日本赤十字社全国支部事務局長会 会長<br>（日本赤十字社東京都支部 事務局長） |
| | 片田 範子 | 平成30年4月就任 | 関西医科大学 看護学部長・研究科長 |
| | 木曽 功 | 平成26年4月就任 | 千葉科学大学 学長 |
| | 久保 公人 | 平成30年4月就任 | 学校法人尚美学園 理事長・尚美学園大学 学長 |

### ◆監事（2名）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 監事 | 竹内 賢治 | 令和2年4月就任 | 日本赤十字社 参与 |
| | 岡原 宏一 | 令和2年4月就任 | 公認会計士岡原事務所 |

### ◆評議員（27名）

河口 てる子　日本赤十字北海道看護大学 学長
守田 美奈子　日本赤十字看護大学 学長
小松 浩子　日本赤十字九州国際看護大学 学長
村田 由香　日本赤十字広島看護大学 学部長
山田 聡子　日本赤十字豊田看護大学 研究科長
大歯 健　日本赤十字九州国際看護大学 事務局長
鈴木 一寿　学校法人日本赤十字学園 法人本部 事務局長
金 愛子　元 石巻赤十字病院 副院長兼看護部長
高島 和歌子　熊本看護専門学校 学校長
高橋 高美　一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 常務理事
田島 恵子　元 深谷赤十字病院 副院長兼看護部長
中野 玲子　藍野大学 医療保健学部看護学科 特任教授
畠山 悦子　元 長野赤十字病院 看護部長
望月 律子　元 静岡赤十字病院 副院長兼看護部長

大塚 義治　日本赤十字社 社長
宮原 保之　日本赤十字社医療事業推進本部 本部長
庄野 泰乃　日本赤十字社医療事業推進本部 副本部長兼看護部長
中川原 米俊　日本赤十字社全国支部事務局長会 会長（日本赤十字社東京都支部 事務局長）
牧野 憲一　日本赤十字社病院長連盟 会長（旭川赤十字病院 院長）
東 智子　赤十字医療施設看護部長会 会長（熊本赤十字病院 副院長兼看護部長）
井伊 久美子　公益社団法人日本看護協会 副会長（香川県立保健医療大学 学長）
飯野 奈津子　医療福祉ジャーナリスト
小野 太一　政策研究大学院大学 教授
木曽 功　千葉科学大学 学長
富田 博樹　日本赤十字社 副社長
中島 正治　公益財団法人結核予防会 理事
服部 亮市　日本赤十字社 参与

※役員賠償責任保険契約について
当法人は、理事、監事及び評議員を被保険者とした役員賠償責任保険契約を締結しており、保険料は全額法人が負担しております。
なお、被保険者による違法行為、犯罪行為等に起因する損害等については、填補の対象外としています。

## 理事会・常務理事会・評議員会の開催状況

| | | |
|---|---|---|
| 理事会 | 第1回（Web会議）令和3年5月24日（月） | 第2回（Web会議）令和3年12月1日（水） |
| | 第3回（Web会議）令和4年3月22日（火） | |
| 常務理事会 | 第1回（Web会議）令和3年4月12日（月） | 第2回（Web会議）令和3年5月10日（月） |
| | 第3回（Web会議）令和3年7月5日（月） | 第4回（Web会議）令和3年9月6日（月） |
| | 第5回（Web会議）令和3年10月4日（月） | 第6回（Web会議）令和3年11月1日（月） |
| | 第7回（Web会議）令和4年1月11日（火） | 第8回（Web会議）令和4年2月7日（月） |
| | 第9回（Web会議）令和4年3月1日（火） | |
| 評議員会 | 第1回（Web会議）令和3年5月24日（月） | 第2回（Web会議）令和3年12月1日（水） |
| | 第3回（Web会議）令和4年3月22日（火） | |

# [各大学・短期大学の施設概要]

## 日本赤十字 北海道看護大学

住 所 〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
電 話 **0157-66-3311** URL **http://www.rchokkaido-cn.ac.jp/**
施設面積 校地：59,797m$^2$／校舎等：16,993m$^2$

## 日本赤十字 秋田看護大学・秋田短期大学

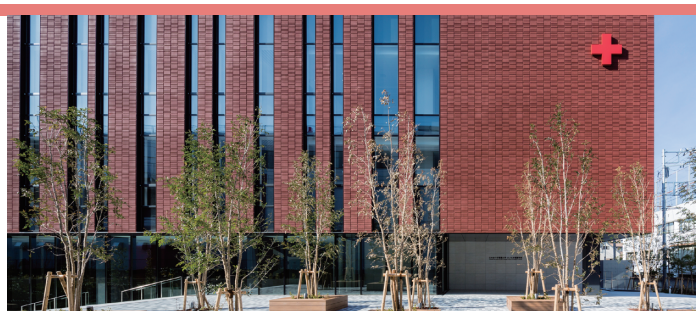
住 所 〒010-1493 秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3
電 話 **018-829-4000** URL **https://www.rcakita.ac.jp/**
施設面積 校地：43,599m$^2$／校舎等：13,771m$^2$

## 日本赤十字 看護大学

（広尾キャンパス）

住 所 〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3
電 話 **03-3409-0875** URL **https://www.redcross.ac.jp/**
施設面積 校地：18,216m$^2$／校舎等：15,695m$^2$

（大宮キャンパス）



住 所 〒338-0001 埼玉県さいたま市中央区上落合8-7-19
電 話 **048-799-2747** URL **https://www.redcross.ac.jp/saitama**
施設面積 校地：2,704m$^2$／校舎等：5,361m$^2$

## 日本赤十字 豊田看護大学

住 所 〒471-8565 愛知県豊田市白山町七曲12-33
電 話 **0565-36-5111** URL **https://www.rctoyota.ac.jp/**
施設面積 校地：19,710m$^2$／校舎等：17,954m$^2$

## 日本赤十字 広島看護大学

住 所 〒738-0052 広島県廿日市市阿品台東1-2
電 話 **0829-20-2800** URL **https://www.jrchcn.ac.jp/**
施設面積 校地：29,882m$^2$／校舎等：19,438m$^2$

## 日本赤十字 九州国際看護大学

住 所 〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1-1
電 話 **0940-35-7001** URL **https://www.jrckicn.ac.jp/**
施設面積 校地：34,456m$^2$／校舎等：15,097m$^2$

学校法人日本赤十字学園

［法人本部事務局］
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社ビル西館6階